

市町村における発掘調査の概要
平成 26 年度（2014 年度）

平成26年度 市町村教育委員会が主体となる発掘調査一覧 (H27.8.27現在)

番号	管内	市町村	遺跡名	調査理由	面積㎡	備考	
1	石狩	札幌市	C551遺跡	開発事業	1,660	市事業	
2			H508遺跡	詳細分布	715	市事業・国庫補助事業	
3		千歳市	茂漁9遺跡	詳細分布	213	国庫補助事業	
4			ユカンボシE1遺跡	詳細分布	8		
5			ユカンボシE2遺跡	詳細分布	18		
6			恵庭公園遺跡	開発事業	178	国庫補助事業	
7			ユカンボシE2遺跡	開発事業	117	国庫補助事業	
8			ユカンボシE2遺跡	開発事業	191	国庫補助事業	
9			恵庭市	柏木川13遺跡		33	試掘調査
10			柏木川7遺跡	開発事業	34		
11			柏木川7遺跡	開発事業	18		
12			ユカンボシE1遺跡	開発事業	127	国庫補助事業	
13			ユカンボシE1遺跡	開発事業	25		
14			島松Bチャシ跡	開発事業	916	一部国庫補助事業	
15	渡島	函館市	陣川町3遺跡	開発事業	1,182		
16			サイベ沢遺跡	開発事業	23		
17			臼尻A遺跡	開発事業	1,182		
18			特別史跡五稜郭跡	自然崩壊	6	法第125条	
19			史跡垣ノ島遺跡	史跡整備	300	法第125条	
20		北斗市	茂辺地4遺跡	開発事業	1,131		
21			村前ノ沢遺跡	開発事業	2,804		
22			森町	史跡蘆ノ木遺跡	史跡整備	100	法第125条
23		松前町	史跡松前氏城跡福山城跡	史跡整備	100	法第125条	
24			福山城下町遺跡	開発事業	3,804		
25	檜山	上ノ国町	史跡上ノ国跡跡のうち熊山館跡	史跡整備	81	法第125条	
26			登町4遺跡	開発事業	3,410	法第99条	
27	後志	余市町	登町13遺跡	開発事業	1,600	法第99条	
28			旭町1遺跡隣接地	詳細分布	76	試掘調査	
29	上川	中川町	安平志内川右岸遺跡	保存目的	340		
30			勇知川左岸2遺跡	開発事業	85	国庫補助事業・試掘調査	
31	宗谷	稚内市	開発事業	961	国庫補助事業・試掘調査		
32			浜頓別町	ブタウス遺跡	開発事業	3,633	
33	オホーツク	北見市	中ノ島遺跡	詳細分布	210		
34			斜里町	川上1遺跡	開発事業	1,281	
35		美幌町	チャシコツ峠上遺跡	詳細分布	40	国庫補助事業	
36			道室郷総美幌田中地区	開発事業	800	国庫補助事業	
37	胆振	苫小牧市	開発事業	2,151	国庫補助事業		
38			勇振地区	開発事業	297	国庫補助事業	
39		厚真町	上幌内2遺跡	開発事業	7,443		
40			上幌内1遺跡	開発事業	9,022		
41			シヨロマ1遺跡	開発事業	853	次年度継続	
42			シヨロマ2遺跡	開発事業	3,648		
43			一里沢遺跡	開発事業	1,582		
44		むかわ町	ニサナイチャシ跡	詳細分布	28	国庫補助事業	
45			ノツカチャシ跡	自然崩壊	100	国庫補助事業	
46		日高	伊達市	若生貝塚	学術調査	42	
47	冬島遺跡			詳細分布	4		
48	厚岸町		豊糠8遺跡	開発事業	3,054	次年度継続	
49	釧路	厚岸町	オカレンボウシ貝塚	詳細分布	4		
50			元村遺跡	開発事業	9		
51	根室	別海町	床丹1チャシ跡	自然崩壊	407		
52							

調査面積合計 56,793 ㎡

平成26年度（公財）北海道埋蔵文化財センターによる発掘調査一覧

(H27.8.27現在)

番号	管内	市町村	遺跡名	調査理由	面積㎡	備考
1	石狩	千歳市	キウス3遺跡	開発事業 道路(国道)	1,267	
2			トプシナイ2遺跡	開発事業 道路	4,528	
3			イカベツ2遺跡	開発事業 道路(国道)	9,669	
4			根志越5遺跡	開発事業 遊水地整備	2,000	
5	渡島	木古内町	札苺7遺跡	開発事業 道路(高規格道)	1,295	
6			札苺8遺跡	開発事業 道路(高規格道)	832	
7			大平4遺跡	開発事業 道路(高規格道)	7,119	
8			亀川5遺跡	開発事業 道路(高規格道)	6,474	
9			泉沢5遺跡	開発事業 道路(高規格道)	8,984	
10	後志	岩内町	東山1遺跡	開発事業 詳細分布	600	重要遺跡確認調査
11	空知	長沼町	幌内K遺跡	開発事業 道路(泉郷道路)	2,294	
12			レプトン川左岸遺跡	開発事業 道路(泉郷道路)	2,398	
13			レプトン川右岸遺跡	開発事業 道路(泉郷道路)	297	
14	オホーツク	湧別町	シブノツナイ2遺跡	開発事業 道路	460	
15	胆振	厚真町	シヨロマ4遺跡	開発事業 ダム	4,000	
16			上幌内3遺跡	開発事業 ダム	5,480	
17			上幌内4遺跡	開発事業 ダム	900	
18			オニキシベ3遺跡	開発事業 ダム	14,830	
19	根室	根室市	トーサムボロ湖周辺整穴群	開発事業 道路	2,910	

調査面積合計 76,337 ㎡

※詳しくは、公益財団法人北海道埋蔵文化財センターへお問い合わせください。

<http://www.domaibun.or.jp/>

平成26年度 大学等による発掘調査一覧

(H27.8.27現在)

番号	管内	市町村	遺跡名	調査理由	面積 m ²	備考
1	石狩	札幌市	K39遺跡	開発事業 その他建物 (研究施設 新設) その他建物 (実験実習 棟) 道路・水道	1,437	北海道大学埋蔵文化財調査室
2		札幌市	K39遺跡		1,331	北海道大学埋蔵文化財調査室
3		札幌市	K39遺跡		105	北海道大学埋蔵文化財調査室
4	後志	倶知安町	峠下遺跡	学術研究	36	札幌国際大学
5	宗谷	礼文町	浜中2遺跡		31.7	千葉大学文学部
6		礼文町	浜中2遺跡		37.4	北海道大学アイヌ・先住民研究センター
7	オホーツク	北見市	大島2(TK-11)遺跡		100	東京大学大学院人文社会系研究科
8	胆振	置戸町	勝山2遺跡		23	鶴丸俊明
9		厚真町	宇隆1遺跡		78	柳澤敏昭
10		豊浦町	礼文華遺跡		14	小杉 康
11	十勝	上士幌町	嶋木遺跡		27.5	首都大学東京都市教養学部
12		大樹町	浜大樹2遺跡		56.05	深澤百合子
13	根室	中標津町	当幌川遺跡		160.92	千葉大学文学部

調査面積合計 3,437 m²

※詳しくは、各大学などへお問い合わせください。
遺跡の位置などは、北の遺跡案内をご覧ください。

<http://www.dokyo.pref.hokkaido.lg.jp/hk/bnh/kitanoisekiannai.htm>

札幌市 C551 遺跡 (登録番号: A-01-551)

調査理由: その他開発(解体及び埋設物調査)

調査地: 札幌市中央区北1条西9丁目

調査主体: 札幌市教育委員会(札幌市埋蔵文化財センター)

調査期間: 平成26年7月7日から10月6日

調査面積: 1,660㎡

調査の概要

C551遺跡は、JR札幌駅から南西方向に約1km、北海道大学北方生物圏フィールド科学センター植物園の南側に位置しています。地形的には、豊平川扇状地の扇端部に位置しており、現在の遺跡付近の標高17～18mです。かつてこの付近には多くの湧泉池が存在し、明治時代に作成された地図等によれば、これらの泉から湧出した水が河川となり、最終的には石狩川に合流していたとの記録が残されています。また、これまでの発掘調査等の成果から、これらの泉周辺や河川流域には、数多くの遺跡が存在することが知られています。

今回の発掘調査では、縄文晩期、統縄文前期、統縄文後期と考えられる3枚の遺構や遺物が出土する土層(以下、遺物包含層)を確認しました。

もっとも新しい1枚目の統縄文後期の遺物包含層からは、炉跡が3カ所あり、4～5mの間隔で南北に並んで見つかリ、遺物は統縄文土器や石鏃、磨製石斧などが出土しました。

2枚目の統縄文前期の遺物包含層からは、土坑8基、炉跡6カ所などがあり、土坑は、底の隅に小さな窪みを作り、そこに土器の底部を供える特徴的なものを検出しました。また、炉跡周辺からは多くの柱穴が見つかったことから、炉の上に屋根をかけていた可能性があります。遺物は統縄文土器や石鏃、石製ナイフ、磨製石斧などが出土しています。また、もっとも古い3枚目の縄文晩期の遺物包含層からは、縄文土器や礫などが出土しました。発掘調査の成果については、平成27年度末に発掘調査報告書として刊行する予定です。



C551 遺跡位置図



C551 遺跡土坑発掘状況

この遺跡についてのお問い合わせや札幌市の遺跡をもっと知りたい方は

札幌市埋蔵文化財センター

所在地: 札幌市中央区南22条西13丁目

電話番号: 011-512-5430

開館時間: 8:45～17:15

閉館日: 祝日、振替休日、年末年始。ただし、5月3～5日、11月3日は開館

札幌市 H508遺跡 (登録番号：A-01-508)

調査理由：詳細分布（測量調査、確認調査）

調査地：札幌市東区丘珠町 571、572、574、575

調査主体：札幌市教育委員会（札幌市埋蔵文化財センター）

調査期間：平成26年6月23日から10月10日

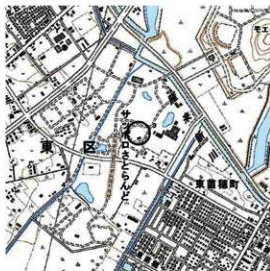
調査面積：715㎡

調査の概要

H508遺跡は、札幌市北部に広がる沖積平野に立地する縄文晩期の遺跡です。石狩川により形成されたと考えられるモエレ沼の南西側に位置しており、現地表面の標高は5m前後、縄文晩期の旧地表面の標高は3m前後です。

H508遺跡は、札幌市農業体験交流施設「サッポロさとらんど」の造成に先立ち、平成4・5年に実施した遺跡の有無を調べる予備的な調査（試掘調査）で、市内でも有数の広がりを持つ縄文晩期の遺跡であることが明らかになり、現在まで、盛土されて地下に現状のまま保存されてきました。この遺跡を活用して、遺跡公園を整備する事業が、平成23年度に「第3次札幌新まちづくり計画」に位置付けられたことから、遺跡の内容をより具体的に把握するための確認調査（部分的な発掘調査）を、平成25・26年度に実施しました。

平成26年度の確認調査では、昨年度の調査に引き続き、縄文晩期の炉跡が複数見つかり、その周囲から、土器や石器等の遺物が集中して出土しました。今年度の調査では、装身具であるコハク製の平玉も数点見つかりました。



H508遺跡位置図



H508遺跡調査状況

この遺跡についてのお問い合わせや札幌市の遺跡をもっと知りたい方は

札幌市埋蔵文化財センター

所在地：札幌市中央区南22条西13丁目

電話番号：011-512-5430

開館時間：8:45～17:15

閉館日：祝日、振替休日、年末年始。ただし、5月3～5日、11月3日は開館

千歳市 市内遺跡発掘調査事業試掘調査地点

調査理由：詳細分布

調査地：千歳市中央 1473-1

調査主体：千歳市教育委員会

調査期間：平成 26 年 5 月 26 日から 9 月 5 日

調査面積：213 m²

調査の概要

国史跡キウス周堤墓群は、JR 千歳駅から北東に 8km ほど離れた、馬追丘陵西麓の丘陵緩斜面、標高 16～20m に立地しています。千歳市は、この史跡周辺の埋蔵文化財の様相を把握するための詳細分布調査を計画しました。平成 25～26 年度の調査区域は、2 号周堤墓を含む国道 337 号東側指定地の南～東側に隣接する市有地（約 43,000 m²）です。

26 年度は、指定地の東側、南北 240m、東西 160m の範囲（約 28,000 m²）を対象に、20m 間隔を基本として配置した平面規模 1m×3m の試掘坑 71 個で発掘調査を実施しました。調査の対象となる縄文時代～江戸時代の地層（層厚約 50～60cm）は、江戸時代に樽前山から噴出降下した火山灰（層厚約 40cm）に覆われ、良好な状態で遺されていました。調査は、表土と火山灰を重機で除去した後、先の地層を発掘作業員が手掘りして行いました。

埋蔵文化財は、29 個の試掘坑で確認されました。いずれも遺物のみの発見であり、住居跡や墓壇、周堤墓等の遺構は検出されていません。遺物は、土器が約 260 点、石器が約 470 点出土しました。縄文時代、続縄文時代、擦文文化期のものです。続縄文時代の遺物が、土器総数の約 9 割、石器総数の 10 割近くを占め、チャシ川源頭部の両岸、80m 四方にある 13 個の試掘坑から見つかっています。縄文時代の遺物は約 40 点と少なく、18 個の出土地点にまともりは認められません。

25～26 年の調査により、調査対象区域はほぼ全城が埋蔵文化財包蔵地であり、縄文時代、続縄文時代、擦文文化期の遺物包含地と判断されます。



写真 発掘調査の様子（竹串を立てたところに続縄文時代の遺物があります）

この遺跡についてのお問い合わせや千歳市の遺跡をもっと知りたい方は

千歳市教育委員会埋蔵文化財センター

電話・FAX 番号：0123-24-4210

メールアドレス：maibun@city.chitose.hokkaido.jp

千歳市埋蔵文化財センター

住所：千歳市長都 42-1

開館時間：9:00～17:00

閉館日：土曜日、月の第 2 日曜日を除く日曜日、祝日、12 月 29 日～1 月 3 日

恵庭市詳細分布調査①

えにわし もいざりきゆういせき 恵庭市 茂漁 9 遺跡 (登録番号 A-04-127)

調査理由：詳細分布（範囲内容確認）
調査地：恵庭市恵央町 3 番 15 外
調査主体：恵庭市教育委員会
調査期間：平成 26 年 4 月 23 日から 4 月 24 日
調査面積：46 m²

調査の概要

茂漁 9 遺跡は、茂漁川の左岸段丘上（標高約 29m）に位置しています。調査地全体が茂漁川の旧氾濫原で、下層に泥炭・粘土・砂、中層に粘土・砂、上層に表土・黒～褐色の粘土や粘質土が堆積していました。遺構は検出されませんでした。遺物は、黒色の粘土や粘質土から統縄文時代後期後北 C2・D 式（約 1,700 年前）の土器や石器、分割礫が出土しました。報告書は平成 27 年 3 月に刊行予定です。



茂漁 9 遺跡の後北 C2・D 式土器

えにわし ゆかんぼしーいちいせき 恵庭市 ユカンボシ E1 遺跡 (登録番号 A-04-2)

調査理由：詳細分布（範囲内容確認）
調査地：恵庭市駒場町 4 丁目 661-3
調査主体：恵庭市教育委員会
調査期間：平成 26 年 5 月 1 日
調査面積：8 m²

調査の概要

ユカンボシ E1 遺跡は、ユカンボシ川の段丘上（標高約 33m）に位置しています。遺構は検出されませんでした。包含層は良好に残存しており、遺物は縄文時代中期と晩期の土器などが出土しました。本調査地は、その後個人住宅が建設されることとなり、事前に発掘調査が行われました。報告書は平成 27 年 3 月に刊行予定です。

この遺跡についてのお問い合わせや恵庭市の遺跡をもっと知りたい方は

恵庭市郷土資料館

電話番号：0123-37-1288

所在地：南島松 157-2

開館時間：9:30～17:00、閉館日：月曜日・祝日の翌日・毎月最終金曜日・年末年始

<http://www.city.eniwa.hokkaido.jp/www/contents/1200034453965/index.html>

恵庭市詳細分布調査②

えにわし ゆかんぼしにいせき
恵庭市 ユカンボシE2遺跡 (登録番号 A-04-3)

調査理由：詳細分布（範囲内容確認）

調査地：恵庭市和光町5丁目495番9

調査主体：恵庭市教育委員会

調査期間：平成26年5月1日

調査面積：18㎡

調査の概要

ユカンボシ E2 遺跡は、ユカンボシ川の段丘上（標高約 29m）に位置しています。遺構は検出されませんでした。包含層は良好に残存していましたが、遺物は縄文時代の土器 1 点が見つかったのみです。報告書は平成 27 年 3 月に刊行予定です。

えにわし かしわぎがわじゆうさんいせき
恵庭市 柏木川 13 遺跡 (登録番号 A-04-107)

調査理由：詳細分布（範囲内容確認）

調査地：恵庭市北柏木町2丁目293-55外

調査主体：恵庭市教育委員会

調査期間：平成26年8月8日

調査面積：33㎡

調査の概要

柏木川 13 遺跡は、柏木川の左岸段丘上（標高約 34m）に位置しています。遺構は検出されませんでした。包含層は耕作により既に削平された部分が多く、残存状況は良くありませんでした。遺物は土器 12 点、石器など 8 点が出土しましたが、耕作土から出土したものが多かったです。土器は縄文時代中期と晩期のものがあり、石器は砥石や石錘があります。報告書は平成 27 年 3 月に刊行予定です。



柏木川 13 遺跡の石錘

この遺跡についてのお問い合わせや恵庭市の遺跡をもっと知りたい方は

恵庭市郷土資料館

電話番号：0123-37-1288

所在地：南島松 157-2

開館時間：9:30～17:00、閉館日：月曜日・祝日の翌日・毎月最終金曜日・年末年始

<http://www.city.eniwa.hokkaido.jp/www/contents/1200034453965/index.html>

えにわし ゆかんばんしーにいせき
恵庭市 ユカンボシE2遺跡（登録番号 A-04-3）

調査理由：開発事業（住宅）

調査地：恵庭市和光町5丁目498-3

調査主体：恵庭市教育委員会

調査期間：平成26年6月11日から6月30日

調査面積：117㎡

調査の概要

ユカンボシ E2 遺跡は、JR 恵庭駅から南に 0.7 km ほど離れたユカンボシ川の段丘上（標高約 29m）に位置しています。遺跡は、過去に 4 度発掘調査が行われています。今回の調査区周辺では、縄文時代晩期前葉（約 2,800 年前）の土器が大量に出土しています。今回は、本遺跡の第 5 次調査となります。

今回の調査で見つかった縄文時代の遺構は、土坑 11 個、焼土 6 個があります。

遺物は、土器約 15,400 点、石器約 13,200 点など全部で約 28,900 点が見つかりました。土器は、縄文時代晩期が大半を占め、そのほとんどが前葉の土器でした。そのほかに、縄文時代前期初頭（約 5,900 年前）、縄文時代中期中葉天神山式（約 4,300 年前）などの土器が出土しています。石器は、縄文時代晩期前葉と推定される石鎌と石錐が多数出土しました。

縄文時代の 2 号土坑と 3 号土坑はいずれも人骨はありませんでしたが、遺体層と思われる土が残存していました。伴出した土器から、2 号が縄文時代前期初頭、3 号が縄文時代晩期前葉の土坑墓と推定されます。特に、3 号土坑は埋土中に焼土が厚く堆積しており、また多数の土器や石器、骨角器、焼けた骨片、炭化種子などが出土しました。かなり手厚く葬られたのでしょうか。

報告書は平成 27 年 3 月に刊行予定です。



ユカンボシ E2 遺跡 2 号土坑



ユカンボシ E2 遺跡 3 号土坑

この遺跡についてのお問い合わせや恵庭市の遺跡をもっと知りたい方は

恵庭市郷土資料館

電話番号：0123-37-1288

所在地：南島松 157-2

開館時間：9:30～17:00、閉館日：月曜日・祝日の翌日・毎月最終金曜日・年末年始

<http://www.city.eniwa.hokkaido.jp/www/contents/1209034453965/index.html>

えにわし ゆかんばんしーにいせき
恵庭市 ユカンボシE2遺跡（登録番号 A-04-3）

調査理由：開発事業（住宅）

調査地：恵庭市和光町5丁目498-57

調査主体：恵庭市教育委員会

調査期間：平成26年7月7日から7月30日

調査面積：191㎡

調査の概要

ユカンボシ E2 遺跡は、JR 恵庭駅から南に 0.7 km ほど離れたユカンボシ川の段丘上（標高約 29m）に位置しています。遺跡は、今年 6 月に同じく個人住宅建設に先立つ発掘調査が行われるなど、過去に 5 度発掘調査が行われています。今回は、本遺跡の第 6 次調査となります。

今回の調査で見つかった縄文時代の遺構は、土坑 16 個、焼土 14 個、土器集中 4 か所、フレイク・チップ集中 1 か所があります。

遺物は、土器約 2,300 点、石器約 1,500 点など全部で約 4,000 点が見つかりました。土器は、縄文時代前期と晩期が多く、縄文時代早期と中期がそれに次ぎます。縄文時代早期は末葉東鋤路Ⅳ式（約 6,000 年前）、縄文時代前期は初頭美沢 3・美々 7 式（約 5,900 年前）、縄文時代晩期は前葉（約 2,800 年前）の土器がほとんどを占めます。

縄文時代の土坑は遺物を伴うものが少なく、詳細な時期は不明なものが多いです。縄文時代の 7 号焼土は、早期末葉東鋤路Ⅳ式の復元土器を伴う屋外炉です。縄文時代の土器集中は、早期末葉東鋤路Ⅳ式のものと同期初頭のものがあります。

報告書は平成 27 年 3 月に刊行予定です。



ユカンボシ E2 遺跡 7号焼土

この遺跡についてのお問い合わせや恵庭市の遺跡をもっと知りたい方は

恵庭市郷土資料館

電話番号：0123-37-1288

所在地：南島松 157-2

開館時間：9:30～17:00、閉館日：月曜日・祝日の翌日・毎月最終金曜日・年末年始

<http://www.city.eniwa.hokkaido.jp/www/contents/1200034453965/index.html>

えにわし えにわこうえんいせき
恵庭市 恵庭公園遺跡（登録番号 A-04-1）

調査理由：開発事業（住宅）

調査地：恵庭市恵南6番82

調査主体：恵庭市教育委員会

調査期間：平成26年5月13日から6月3日

調査面積：178㎡

調査の概要

恵庭公園遺跡は、JR恵庭駅から南に1.5kmほど離れたユカンボシ川の段丘上（標高約35m）に位置しています。遺跡は、過去に2度発掘調査が行われています。恵庭公園内の湧水地に近い段丘には、今も擦文時代の堅穴住居のくぼみが約30個確認でき、このうち1個は昭和38年に北海道大学の太場利夫氏らにより発掘調査が行われました。平成14・15年には、遺跡内の最も下流側、ユカンボシ E1 遺跡と隣り合う区域で道路工事に伴う発掘調査が行われています。今回は、本遺跡の第3次調査となります。

今回の調査で見つかった縄文時代の遺構は、堅穴住居跡3軒、土坑8個、落とし穴1個、焼土4個があります。擦文時代の遺構は、土器集中が1か所あります。アイヌ文化期の遺構は、建物跡が1軒ありました。

遺物は、土器約500点、石器約500点など全部で約1,100点が見つかりました。土器は、縄文時代中期が大半を占め、その多くが中期中葉萩ヶ岡2式（約4,400年前）でした。そのほかに、縄文時代晩期後葉（約2,400年前）、続縄文時代後期後北 C2・D 式（約1,700年前）、擦文時代初頭北大Ⅲ式（約1,400年前）などの土器が出土しています。

縄文時代の1号堅穴住居跡と2号焼土は、伴出した土器から中期中葉萩ヶ岡2式期のものと推定できます。アイヌ文化期の1号建物跡は、平成14・15年の道路工事に伴う発掘調査で見つかった平地住居跡に付属する高床倉庫と考えられます。

恵庭市では縄文時代中期中葉萩ヶ岡2式期の住居跡はあまり確認されておらず、貴重な追加例となりました。

報告書は平成27年3月に刊行予定です。



恵庭公園1号建物跡

この遺跡についてのお問い合わせや恵庭市の遺跡をもっと知りたい方は

恵庭市郷土資料館

電話番号：0123-37-1288

所在地：南島松157-2

開館時間：9:30～17:00、閉館日：月曜日・祝日の翌日・毎月最終金曜日・年末年始

<http://www.city.eniwa.hokkaido.jp/www/contents/1200034453965/index.html>

えにわし かしわざがわなないせき
恵庭市 柏木川7遺跡 (登録番号 A-04-24)

調査理由：開発事業（その他建物）

調査地：恵庭市柏陽町3丁目194番163

調査主体：恵庭市教育委員会

調査期間：平成26年8月1日から8月9日

調査面積：52㎡（A地区18㎡、B地区34㎡）

調査の概要

柏木川7遺跡は、JR恵み野駅から西に1kmほど離れた柏木川の右岸段丘上（標高約33m）に位置しています。遺跡は、平成15年に道路工事に伴って発掘調査が行われています。その時は、縄文時代前期末葉大麻V式（約5,100年前）の竪穴住居跡や土坑が多数見つかりました。今回の第2次調査は、その調査区よりも約30m 柏木川から離れた河岸段丘上で行われました。

今回の調査で見つかった縄文時代の遺構は、土坑2個、焼土1個、柱穴4個があります。

遺物は、土器約170点、石器約20点、礫約30点など全部で約220点が見つかりました。土器は、縄文時代中期が多く、中葉の天神山式（約4,300年前）と後葉の柏木川式（約4,200年前）などがあります。そのほかに、縄文時代前期末葉大麻V式などの土器が出土しています。

縄文時代の柱穴4個は、竪穴住居跡に伴う可能性もありましたが、上部が攪乱されており特定できませんでした。

報告書は平成27年3月に刊行予定です。



柏木川7遺跡2号土坑（右奥）と柱穴

この遺跡についてのお問い合わせや恵庭市の遺跡をもっと知りたい方は

恵庭市郷土資料館

電話番号：0123-37-1288

所在地：南島松157-2

開館時間：9:30～17:00、閉館日：月曜日・祝日の翌日・毎月最終金曜日・年末年始

<http://www.city.eniwa.hokkaido.jp/www/contents/1200034453965/index.html>

えにわし ゆかんばんしーいちいせき
恵庭市 ユカンボシE1遺跡（登録番号 A-04-2）

調査理由：開発事業（住宅）

調査地：恵庭市駒場町4丁目661-3

調査主体：恵庭市教育委員会

調査期間：平成26年8月11日から9月3日

調査面積：127㎡

調査の概要

ユカンボシ E1 遺跡は、JR 恵庭駅から南に 1.2km ほど離れたユカンボシ川の段丘上（標高約 33m）に位置しています。遺跡は、平成 24 年と 25 年に下水道と道路工事を原因とする発掘調査が行われています。平成 24 年の調査では縄文時代後期後葉堂林式期（約 3,200 年前）の墓城が見つかり、そのうち 1 基の土坑墓からは赤漆塗りの櫛が 1 点出土しました。今回は、本遺跡の第 3 次調査となります。

今回の調査で見つかった縄文時代の遺構は、竪穴住居跡 1 軒、土坑 8 個、落とし穴 1 個、焼土 2 個、土器集中 4 か所があります。

遺物は、土器約 1,300 点、石器約 200 点など全部で約 1,500 点が見つかりました。土器は、縄文時代晩期が多く、縄文時代中期がそれに次ぎます。縄文時代中期は中葉天神山式（約 4,300 年前）が多く、縄文時代晩期は大半が後葉（約 2,400 年前）の土器です。

縄文時代の竪穴住居跡と土坑は遺物をあまり伴わないことから、詳細な時期は不明なものが多いですが、1 号土坑は伴出する土器から縄文時代中期中葉天神山式期のものと推定されます。

報告書は平成 27 年 3 月に刊行予定です。



ユカンボシ E1 遺跡 1 号土坑

この遺跡についてのお問い合わせや恵庭市の遺跡をもっと知りたい方は

恵庭市郷土資料館

電話番号：0123-37-1288

所在地：南島松 157-2

開館時間：9:30～17:00、閉館日：月曜日・祝日の翌日・毎月最終金曜日・年末年始

<http://www.city.eniwa.hokkaido.jp/www/contents/1200034453965/index.html>

えにわし ゆかんばんしーいちいせき
恵庭市 ユカンボシE1遺跡（登録番号 A-04-2）

調査理由：開発事業（住宅）

調査地：恵庭市駒場町4丁目681

調査主体：恵庭市教育委員会

調査期間：平成26年9月4日から9月9日

調査面積：26㎡

調査の概要

ユカンボシE1遺跡は、JR恵庭駅から南に1.2kmほど離れたユカンボシ川の段丘上（標高約33m）に位置しています。遺跡は、今年8月に同じく個人住宅建設に先立つ発掘調査が行われるなど、過去に3度発掘調査が行われています。今回は、本遺跡の第4次調査となります。

今回の調査で見つかった縄文時代の遺構は、竪穴住居跡1軒、土坑2個があります。

遺物は、土器約300点、石器約50点など全部で約360点が見つかりました。土器は、ほとんどが縄文時代早期後葉の中茶路式（約6,200年前）です。

縄文時代の1号竪穴住居跡は大半が調査区外にありますが、縄文時代早期後葉の中茶路式土器を伴っています。

報告書は平成27年3月に刊行予定です。



ユカンボシE1遺跡1号竪穴住居跡

この遺跡についてのお問い合わせや恵庭市の遺跡をもっと知りたい方は

恵庭市郷土資料館

電話番号：0123-37-1288

所在地：南島松157-2

開館時間：9:30～17:00、閉館日：月曜日・祝日の翌日・毎月最終金曜日・年末年始

<http://www.city.eniwa.hokkaido.jp/www/contents/1200034453965/index.html>

えにわし しまつびーち やしあと
恵庭市 島松Bチャシ跡 (登録番号 A-04-93)

調査理由：開発事業・詳細分布
調査地：恵庭市島松沢 131-4 外
調査主体：恵庭市教育委員会
調査期間：平成 26 年 5 月 19 日から 10 月 27 日
調査面積：916 m² (うち国庫補助事業 314 m²)

調査の概要

島松 B チャシ跡は、恵庭市街地から北西約 6km の地点に位置し、島松川の右岸段丘上の細長く舌状に張り出した台地上(約 45～65m)に立地します。舌状先端部は小高くなった丘頂状を呈し、島松川に面した段丘縁は垂直に近い崖面となっています。本遺跡のある台地の島松川に面した垂直に近い崖面は、支笏火砕流を由来とする溶結凝灰岩の厚い層が露出し、崖面の崩落がしばしば発生する状況にありました。平成 23 年 5 月には、これまでで最大規模とみられる巨岩の崩落事故が発生したため、緊急の安全対策工事に伴う工事立会を実施しましたが、緊急工事後も小規模な崩落が発生していることから、平成 27 年度以降に、恒久的な落石対策工事を実施するため、平成 26 年度に工事に伴う発掘調査と国庫補助事業による内容確認調査を実施しました。



写真1 昭和7年撮影

本遺跡の発見は、1932(昭和7)年に遡ります。当時の調査記録は後藤寿一氏によって記されており、本遺跡を北広島市側から(北西側から)撮影された写真が添付されています(写真1)。この写真には、島松 B チャシ跡の崖面が崩落する前の、ほぼ完全に近い形状を保った姿が写されています。この写真の存在によって遺跡本来の姿を窺い知ることができます。

今回の調査によって確認できた遺構は、壕状遺構、堅穴住居跡、土坑、焼土、盛土状遺構、杭穴などがあります。出土遺物は、縄文中期後半から後期初頭の土器(天神山式、北筒式、余市式など)を主体とし、石器(石鎌など)や土製品(三角形土器片加工品)、礫(こぶし大を主体とし、被熱されたものもある)が出土しました。

特徴的な遺構として、壕状遺構が挙げられます(写真2)。壕底面および底面直上出土の土器から、縄文中期後半から後期初頭所産の遺構であると推定されます。縄文時代の壕状遺構は極めて類例が少ないですが、近隣地域の千歳市丸子山遺跡と苫小牧市静川遺跡で見つかっています。しかし、これらとは相違点(立地や出土遺物など)が多く、類例の増加が待たれる状況にあるといえます。

本遺跡は、1932(昭和7)年の発見以来、崖面に露出した壕の断面や、現況地形に残された壕状のくぼみ、台地先端部という立地条件からチャシ跡として認識されていた遺跡でした。しかしながら結果として、チャシの壕と考えられていたものが、縄文時代に構築されたものであることが分かりました。



写真2 壕状遺構断面

報告書は平成 27 年 3 月に刊行予定です。

この遺跡についてのお問い合わせや恵庭市の遺跡をもっと知りたい方は

恵庭市郷土資料館

電話番号：0123-37-1288

所在地：南島松 157-2

開館時間：9:30～17:00、閉館日：月曜日・祝日の翌日・毎月最終金曜日・年末年始

<http://www.city.eniwa.hokkaido.jp/www/contents/1200034453965/index.html>

函館市 陣川町 3 遺跡 (登録番号: B-01-321)

調査理由: 開発事業 (道路)

調査地: 函館市陣川町 44-1 ほか

調査主体: 函館市教育委員会

調査実施: 特定非営利活動法人 函館市埋蔵文化財事業団

調査期間: 平成 26 年 6 月 11 日から 8 月 22 日

調査面積: 1,182 m²

調査の概要

遺跡は、函館駅周辺の市街地から北東方向に約 7 km 離れた陣川町にあり、陣川右岸の段丘上の緩斜面 (標高 90m 前後) に立地します。周辺には史跡四稜郭や縄文中期の大規模集落跡である陣川町遺跡などがあります。今回の調査は、陣川支流の無名小河川の隣接地を調査し、縄文時代後・晩期の遺構・遺物を検出しました。

遺構は包含層中に焼土 2 か所を検出しました。遺物は、土器 1,238 点や石器類 237 点の合計 1,475 点が出土しました。特に、縄文時代の後期土器 (266 点) や晩期土器 (972 点) や、石器製品として剥片石器 22 点、礫石器 10 点などがあります。後期土器はタガ状の貼付や縄線文をもち、晩期土器は主に爪形文、刺突文、沈線文などの文様が施される特徴があります。また、石器は、石鏃、石錐、ナイフ・スクレイパー類、石ノミ、凹石、敲石、砥石などがあります。なお、報告書は平成 27 年度内に刊行する予定です。



作業全景



土器出土状況 (縄文後期)

この遺跡についてのお問い合わせや函館市の遺跡をもっと知りたい方は

函館市教育委員会生涯学習部文化財課埋蔵文化財担当 (陣川町 3 遺跡について)

所在地: 函館市白尻町 551-1 (函館市縄文文化交流センター内) 電話番号: 0138-25-5113
<http://www.city.hakodate.hokkaido.jp/soshiki/bunkazai/>

市立函館博物館 (函館市内の遺跡について)

所在地: 函館市青柳町 17-1 電話番号: 0138-23-5480
開館時間: (4月~10月) 9:00~17:00、(11月~3月) 9:00~16:30
休館日: 月曜日・毎月最終金曜日、祝日、年末年始など
<http://www.city.hakodate.hokkaido.jp/soshiki/museum/>

函館市縄文文化交流センター (函館市内の遺跡について)

所在地: 函館市白尻町 551-1 電話番号: 0138-25-2030
開館時間: (4月~10月) 9:00~17:00、(11月~3月) 9:00~16:30
閉館日: 月曜日・毎月最終金曜日、年末年始など
<http://www.hjcc.jp/>

ほこだてし きいべざわいせき
函館市 サイベ沢遺跡(登録番号：B-01-82)

調査理由：開発事業（河川）
調査地：函館市桔梗町 24-1 ほか
調査主体：函館市教育委員会
調査実施：特定非営利活動法人 函館市埋蔵文化財事業団
調査期間：平成 26 年 9 月 1 日から 9 月 16 日
調査面積：23 m²

調査の概要

遺跡は函館平野に面した標高 20～30m ほどの河岸段丘上に位置します。古くから北海道南部の円筒土器文化を代表する大規模集落跡として知られ、常盤川左岸台地上に推定 19 万 m² の規模でひろがっています。縄文時代中期後半の集落跡を検出した平成 25 年度調査区に隣接する常盤川寄りの地点を調査しました。

調査では堅穴住居跡 2 軒を検出できました。2 軒とも調査区外にまで延びるため、大きさや平面形などの全容は不明です。ともに、遺構を確認した面からの深さは約 80 cm で、床面には柱穴と周溝（壁に沿った溝）が確認できました。住居跡からは中期後半の土器、剥片石器、礫石器、有孔の土製円盤や軽石製品など計 108 点の遺物が出土しています。住居跡の構築時期は出土遺物から中期後葉と考えられます。遺構外からは中期後半を主体とする土器、石器類 225 点が出土しました。なお、報告書は、平成 26 年度内に刊行予定です。



作業全景



堅穴住居跡(縄文中期)

この遺跡についてのお問い合わせや函館市の遺跡をもっと知りたい方は

函館市教育委員会生涯学習部文化財課埋蔵文化財担当（サイベ沢遺跡について）

所在地：函館市白尻町 551-1（函館市縄文文化交流センター内） 電話番号：0138-25-5113
<http://www.city.hakodate.hokkaido.jp/soshiki/bunkazai/>

市立函館博物館（函館市内の遺跡について）

所在地：函館市青柳町 17-1 電話番号：0138-23-5480
開館時間：（4月～10月）9:00～17:00、（11月～3月）9:00～16:30
休館日：月曜日・毎月最終金曜日、祝日、年末年始など
<http://www.city.hakodate.hokkaido.jp/soshiki/museum/>

函館市縄文文化交流センター（函館市内の遺跡について）

所在地：函館市白尻町 551-1 電話番号：0138-25-2030
開館時間：（4月～10月）9:00～17:00、（11月～3月）9:00～16:30
閉館日：月曜日・毎月最終金曜日、年末年始など
<http://www.hjcc.jp/>

函館市 白尻A遺跡（登録番号：B-01-237）

調査理由：開発事業（道路）

調査地：函館市白尻町357・411番地ほか

調査主体：函館市教育委員会

調査実施：特定非営利活動法人 函館市埋蔵文化財事業団

調査期間：平成26年5月9日から平成26年10月27日

調査面積：1,182㎡

調査の概要

遺跡は、白尻町の弁天岬に面した標高40m前後の海岸段丘上に位置しています。発掘調査は縄文時代前期以降の遺物包含層（Ⅲ層）と早期の遺物包含層（Ⅴ層）で実施しました。

・Ⅲ層の調査

遺構は、堅穴住居跡3軒、掘立柱建物跡2軒、貯蔵穴4基、土坑141基、落し穴1基、柱状穴ビット98基、屋外炉1基、焼土1か所、炭化物集中1か所を確認しました。堅穴住居跡の平面形には卵形や不整形円形などがあります。卵形のもの、縄文後期初頭頃のもので、円礫を二重の円形に組んだ石囲炉があります。先端部を除く壁際には周溝が巡ります。不整形円形ものは、後期前半頃のもので、円礫を円形に組んだ石囲炉が設置されています。掘立柱建物跡には、一边が北東方向に面しており、6本または4本の柱穴を有しています。また、上屋構造をもつ可能性がある貯蔵穴などが確認できました。

遺物は、縄文後期前半を主体とする土器や、石鏃、石槍、スクレイパー、甕状石器、石斧、蔽石、擦石、磨石、砥石、石皿などの石器、石製品などが約4,400点出土しました。

・Ⅴ層の調査

駒ヶ岳起源のKo-f・Ko-g火山灰（Ⅳ層）の除去後にⅤ層の掘削を行いました。遺構は、円形と楕円形の平面形をもつ土坑10基、直径約0.4m、深さ0.6mの柱状穴ビット1基を確認しました。遺物は、縄文早期前半の貝殻文系を主体とした土器や石槍、つまみ付ナイフ、スクレイパー、蔽石、擦石、石錘などの石器が約320点出土しました。

報告書は平成27年度内に刊行する予定です。



遺跡全景



堅穴住居跡作業状況

この遺跡についてのお問い合わせや函館市の遺跡をもっと知りたい方は

函館市教育委員会生涯学習部文化財課埋蔵文化財担当（白尻A遺跡について）

所在地：函館市白尻町551-1（函館市縄文文化交流センター内） 電話番号：0138-25-5113
<http://www.city.hakodate.hokkaido.jp/soshiki/bunkazai/>

市立函館博物館（函館市内の遺跡について）

所在地：函館市青柳町17-1 電話番号：0138-23-5480
開館時間：（4月～10月）9:00～17:00、（11月～3月）9:00～16:30
休館日：月曜日・毎月最終金曜日、祝日、年末年始など
<http://www.city.hakodate.hokkaido.jp/soshiki/museum/>

函館市縄文文化交流センター（函館市内の遺跡について）

所在地：函館市白尻町551-1 電話番号：0138-25-2030
開館時間：（4月～10月）9:00～17:00、（11月～3月）9:00～16:30
閉館日：月曜日・毎月最終金曜日、年末年始など
<http://www.bjcc.jp/>

函館市 特別史跡五稜郭跡（登録番号：B-01-76）

調査理由：史跡整備（遺構確認）

調査地：函館市五稜郭町 1-1

調査主体：函館市教育委員会

調査期間：平成 26 年 7 月 30 日から 8 月 29 日

調査面積：6 m²

調査の概要

特別史跡五稜郭跡は、幕末の箱館開港に伴い設置された箱館奉行所の防御施設で、稜堡と呼ばれる 5 つの突角を有する五角形の「西洋式土塁」です。

平成 26 年 3 月に、南東側の堀内周にある石垣が、幅約 10m、高さ約 2m の範囲で崩落が発生したため、石垣の復旧をめざした緊急調査が必要となりました。崩落した石垣の背面や地盤の状況を確認するために、一部にトレンチを設定して調査を行いました。

トレンチ（幅 2.0m × 長さ 3.0m）は、調査時の危険防止や石垣の二次崩落を防ぐために、石垣天端想定ラインから約 1m 離れた地点に設定しました。深さ 1.0～1.5m まで掘削を行い、土層の堆積状況などについて、図面作成や写真撮影をして記録しました。

調査の結果、石垣背面には裏込め石がほとんど確認されませんでした。埋め戻し土からは、本来石積みに使用されたと思われる加工石材が 1 個混入していました。当該箇所については、昭和 28 年に石垣の保存修理工事を実施した記録があることから、埋め戻し土はその時の工事の痕跡と考えられます。

また、上記の埋め戻し土の下層には、天端想定ラインから約 0.7m 奥側に、築造当時に裏込めされたと考えられる礫（拳大の川原石）層が確認できました。

さらに、埋め戻し土や礫層よりも奥側は、上位は陸性堆積、下位では水性堆積となる青灰色粘質土などの自然堆積層を確認しました。

今後は、調査成果をもとにして、石垣復旧の工法を検討して、平成 27 年度には崩落箇所の石垣復旧工事を実施する予定です。



特別史跡五稜郭跡（南から）



トレンチ土層堆積（西から）

この遺跡についてのお問い合わせや函館市の遺跡をもっと知りたい方は

函館市教育委員会生涯学習部文化財課埋蔵文化財担当（特別史跡五稜郭跡について）

所在地：函館市白尻町 551-1（函館市縄文文化交流センター内） 電話番号：0138-25-5113
<http://www.city.hakodate.hokkaido.jp/soshiki/bunkazai/>

市立函館博物館（函館市内の遺跡について）

所在地：函館市青柳町 17-1 電話番号：0138-23-5480
開館時間：（4 月～10 月）9:00～17:00、（11 月～3 月）9:00～16:30
休館日：月曜日・毎月最終金曜日、祝日、年末年始など
<http://www.city.hakodate.hokkaido.jp/soshiki/museum/>

函館市縄文文化交流センター（函館市内の遺跡について）

所在地：函館市白尻町 551-1 電話番号：0138-25-2030
開館時間：（4 月～10 月）9:00～17:00、（11 月～3 月）9:00～16:30
閉館日：月曜日・毎月最終金曜日、年末年始など
<http://www.hjcc.jp/>

函館市 史跡垣ノ島遺跡（登録番号：B-01-258）

調査理由：史跡内容確認

調査地：函館市白尻町 417-1～5、419-1・2、426-1、432、530-1・2、531

調査主体：函館市教育委員会

調査期間：平成 26 年 6 月 9 日から 10 月 31 日

調査面積：232 m²

調査の概要

今年度は、史跡の内容確認および今後の整備活用に向けて、盛土遺構の主体部と小丘地点、そして配石遺構の 3 地点の調査を実施しました。

盛土遺構は、その範囲と形状を確認するために、据部分 8 箇所に調査区を設定して、調査を行いました。その結果、縄文時代の盛土遺構の形状を示す緩やかな立ち上がりを検出でき、盛土最上層の堆積土や遺物包含層などを確認することができました。

小丘地点は、盛土に囲まれた削平部のぼつ中心に位置し、人為的な高まりであることがこれまでの調査でわかってきました。今回の調査区は、小丘地点の明瞭な立ち上がりと、その傾斜に沿って配されたと考えられる大型礫が検出されました。また、緩い傾斜や自然堆積物の堆積から、その規模についても概ね捉えることができました。

配石遺構の調査は、昨年度に引き続き、ハンドボーリング結果をもとにして、配石遺構が想定される地点を絞って実施しました。調査の結果、昨年検出した配石遺構の周囲から新たに多数の配石遺構を検出できました。礫の配置は列状になるものが多く、一部では弧状になるものと考えられます。配石遺構の外側は、土手状に高い傾斜に沿って、板状礫を立てかけるように配置した例もありました。今回の調査では、配石遺構の広がりや構造の一端、削平によって意図的に作られたと考えられる配石遺構の周辺地形について確認することができました。報告書は平成 28 年度に刊行の予定です。



盛土遺構 主体部



配石遺構

この遺跡についてのお問い合わせや函館市の遺跡をもっと知りたい方は

函館市教育委員会生涯学習部文化財課埋蔵文化財担当（史跡垣ノ島遺跡について）

所在地：函館市白尻町 551-1（函館市縄文文化交流センター内） 電話番号：0138-25-5113

<http://www.city.hakodate.hokkaido.jp/soshiki/bunkazai/>

市立函館博物館（函館市内の遺跡について）

所在地：函館市青柳町 17-1 電話番号：0138-23-5480

開館時間：（4 月～10 月）9:00～17:00、（11 月～3 月）9:00～16:30

休館日：月曜日・毎月最終金曜日、祝日、年末年始など

<http://www.city.hakodate.hokkaido.jp/soshiki/museum/>

函館市縄文文化交流センター（函館市内の遺跡について）

所在地：函館市白尻町 551-1 電話番号：0138-25-2030

開館時間：（4 月～10 月）9:00～17:00、（11 月～3 月）9:00～16:30

閉館日：月曜日・毎月最終金曜日、年末年始など

<http://www.bjcc.jp/>

ほくとし もへじよんいせき
北斗市 茂辺地4遺跡 (登録番号 B-06-72)

調査理由：開発事業(道路)

調査地：北斗市茂辺地 821

調査主体：北斗市教育委員会

調査期間：平成 26 年 5 月 28 日～平成 26 年 11 月 26 日

調査面積：1,131 m²

調査の概要

茂辺地4遺跡は、JR茂辺地駅から約1kmほど西側、茂辺地川から見て南側の海岸段丘上、標高67～75mの位置にあります。発掘調査を必要とする遺跡の範囲は全体で約21,000m²で、平成22年から継続して調査を行っており、今年が最終年になります。

今年度の調査区は、縄文時代後期初頭の集落が見つかった平成24年度の調査区と、縄文時代中期中ごろの集落が見つかった平成25年度の調査区の間を通る道路の下、幅8m・長さ140mほどの平坦面になります。

遺物は見つかりませんが、遺構は落とし穴が1基見つかりました。

これまでの茂辺地4遺跡の調査では、本来集落をつくるのに適しているはずの平坦面では無く、斜面を中心に遺構・遺物が見つかっていましたが、今年度の調査により、遺跡全体を通して同じような傾向にあることが確かめられました。

これまでの調査の成果についての報告書を、今年度末に刊行する予定です。



調査区状況



落とし穴完掘状況

この遺跡についてのお問い合わせや北斗市の遺跡をもっと知りたい方は

北斗市教育委員会

所在地：〒049-0156 北斗市中野通2丁目13-1

電話番号：0138-74-2000

ほくとし むらまえのさわいせき
北斗市 村前ノ沢遺跡 (登録番号 B-06-105)

調査理由：開発事業(道路)

調査地：北斗市当別 697-55

調査主体：北斗市教育委員会

調査期間：平成 26 年 5 月 28 日～平成 26 年 11 月 26 日

調査面積：2,804 m²

調査の概要

村前ノ沢遺跡は、J R 茂辺地駅から約 1.5km 西側、茂辺地川右岸の標高 70～74m の海岸段丘上にあります。北東に当別側へと下る沢が走り、対岸に茂辺地 4 遺跡が立地します。

調査を必要とする範囲は 4,247 m² で、昨年度に引き続いての調査になります。本年度は要調査範囲のうち南東・海側、2,804 m² について調査を行いました。

南西側で新しい時代の削平を受け、全体の約 1/5 程の範囲で元の地形が失われていましたが、調査区東側の沢べりで縄文時代中期後葉のもの、段丘の尾根を中心に後期初頭のものが見られる、堅穴住居を中心とした遺構の分布がそれぞれ確認されました。

遺構の種類・数は、堅穴住居跡 8 軒・土坑 22 基、その他焼土・石組炉などで、分布の状況からみて、小規模な集落があったものと考えられます。

遺物は、約 130,000 点出土しています。そのほとんどが縄文土器で、全体の約 9 割を占めます。その他、剥片石器・礫石器などの石器群に加え、環状土製品・板状土偶など、「こころ」のはたらきに係る遺物も出土しています。

遺物の属する時代は、遺構と同じ中期後葉・後期初頭のほか、沢の中から、それらよりも古い、中期前葉・円筒上層 a～c 式の時期を主体とした大量の土器・石器が堆積しているのが見つかりました。より新しい時期であるはずの中期後葉の生活面を覆う形で堆積していること、分布範囲が調査区外の北西・山側の微高地から下る斜面側に偏っていることから、調査区外の遺跡から流れ込んだ可能性が考えられます。

報告書は、次年度以降に刊行する予定です。



村前ノ沢遺跡調査区区撮



縄文時代中期後葉の堅穴住居跡

この遺跡についてのお問い合わせや北斗市の遺跡をもっと知りたい方は

北斗市教育委員会

所在地：〒049-0156 北斗市中野通 2 丁目 13-1

電話番号：0138-74-2000

もりまち わしの きいせき
森町 鷺ノ木遺跡（登録番号 B-14-35）

調査理由：史跡整備

調査地：茅部郡森町字鷺ノ木町 499-2

調査主体：森町教育委員会

調査期間：平成 26 年 7 月 14 日から 9 月 19 日まで

調査面積：100 m²

調査の概要

鷺ノ木遺跡は森町市街地の西方約 4 km、内浦湾の海岸線から直線距離で約 1 km 内陸に位置します。桂川の支流の上毛無沢川と下毛無沢川に挟まれた標高約 70m の舌状台地である高位段丘面と、それらの川に面した標高 37～50m 前後の緩斜面の低位段丘面、高位段丘面と低位段丘面をつなぐ比高差約 15m の斜面に立地しています。高位段丘面からは環状列石の他に堅穴墓城、堅穴建物跡、環状配石が発見されています。低位段丘面からは土坑が 1 基、上毛無沢川に沿ったかたちで後期前葉の遺物が多く発見されています。今年度は低位段丘面で発見された土坑の周辺に同様のものが存在するか確認のため、平成 22 年度に調査された調査区を拡張して調査を行いました。

調査区内からは風倒木の痕跡が多くみられ、現地形の平坦面とは異なり大きな起伏が確認されました。調査の結果、遺構は確認されませんでした。縄文時代中期から続縄文時代までの遺物が発見され、後期以外にもこの段丘面を利用していたことが確認されました。発見された遺物のほとんどが V 層から出土しており、縄文時代中期前半の土器片が一方所でまとまって出土したほか、縄文時代晩期の赤彩された土器片や続縄文時代の土器片が出土しました。石器は石鏃や磨製石斧などが出土したほか、メノウの剥片が一定のエリアに偏って出土する傾向がみられました。更に、メノウの原石も出土しており、運び込んできたものを加工した可能性も考えられます。



調査区全景



遺物出土状況近景

この遺跡についてのお問い合わせや森町の遺跡をもっと知りたい方は

森町教育委員会（鷺ノ木遺跡について）

電話番号：01374-2-2186

森町遺跡発掘調査事務所（町内の遺跡について）

電話番号：01374-2-2240

メールアドレス：moriwashi-site@festa.ocn.ne.jp

開館時間：9 時～16 時まで

閉館日：土日祝日・年末年始

まつまえちょう しせきまつまえししろあふくやまじょうあと
松前町 史跡松前氏城跡福山城跡（登録番号 B-02-53）

調査理由：史跡整備

調査地：松前郡松前町字松城 146・148・149 番地

調査主体：松前町教育委員会

調査期間：平成 26 年 7 月 22 日から 11 月 13 日

調査面積：70 m²

調査の概要

福山城は、前身となる福山館を改修・補強し、安政元年（1854）に完成した旧日本式城郭で、外国船対策（海防）のために、海に面した三ノ丸に 7 基の台場（砲台）を持つという特色があります。明治 8 年（1875）までに、三層天守と本丸御門、本丸御殿を残して城内の石垣や建物が取り壊されました。三層天守は一時国宝となりましたが、昭和 24 年（1949）に焼失し、現在は「本丸御門」が重要文化財として保存されています。

昭和 50 年度には第一次保存管理計画を、平成 8 年度には第二次保存管理計画を策定し、これに基づき史跡整備事業が進められています。

今年度の調査区は、二ノ丸地区南西部です。調査区の西側は、幕末築城時の『福山城見分図』（北海道大学附属図書館北方資料室所蔵）によると、本来は土坡であったことが判ります。しかし、近代以降に石垣が構築され、近年、石垣に孕みが認められるようになったことで、石垣撤去・地形復元を目的とした遺構確認調査を行うに至りました。調査の結果、幕末築城時の土坡の一部を確認しました。また、福山館期の土坡も併せて確認することができた箇所もありました。平成 26 年度 3 月に刊行予定です。



二ノ丸地区南西部近景



幕末築城時の土坡（黒色土）の落込み

この遺跡についてのお問い合わせや松前町の遺跡をもっと知りたい方は

松前町教育委員会（史跡松前氏城跡福山城跡について）

電話番号：0139-42-3060

松前町郷土資料館（松前町内の遺跡について）

電話番号：0139-42-3060

開館日時：毎年 4 月 10 日～12 月 10 日、9:00～4:30

調査理由：史跡整備

調査地：松前郡松前町字福山（道道松前港線）

調査主体：松前町教育委員会

調査期間：平成 26 年 9 月 15 日から 2 月 26 日

調査面積：約 500 ㎡

調査の概要

福山城下町遺跡は、平成 17 年に遺跡台帳に登録され、これまで松前町教育委員会及び北海道埋蔵文化財センターによる調査が行われてきました。その結果、土蔵の土台石や建物礎石、井戸跡、鍛冶遺構などが検出され、中・近世の様々な遺物が出土しました。また、火災の度に盛土・整地を行い、町屋を再建してきたことが土層断面から判明しています。

今年度の調査は、道道松前港線の道路拡幅工事にかかるものです。調査の結果、土蔵の土台石や、開渠遺構、土地境界の縁石などが発見されました。出土遺物は中世～近・現代までの陶磁器・古銭・木製品・金属製品・石製品・ガラス等です。

報告書は平成 26 年度 3 月に刊行予定です。



福山城下町遺跡近景



発見された土蔵の土台石

この遺跡についてのお問い合わせや松前町の遺跡をもっと知りたい方は

松前町教育委員会（福山城下町遺跡について）

電話番号：0139-42-3060

松前町郷土資料館（松前町内の遺跡について）

電話番号：0139-42-3060

開館日時：毎年 4 月 10 日～12 月 10 日、9:00～4:30

かみのくにちょう しせきかみのくにたてあと かつやまだであと
上ノ国町 史跡上之国館跡のうち勝山館跡（登録番号：C-02-3）

調査理由：史跡整備

調査地：上ノ国町字勝山 426、429、429-7

調査主体：上ノ国町教育委員会

調査期間：平成 26 年 5 月 15 日～平成 26 年 6 月 25 日

調査面積：81 m²

調査の概要

史跡上之国館跡のうち勝山館跡は、天の川河口から 500m 西側に所在し、中心部分で標高約 100m の海岸段丘に位置しており、現在、史跡整備に向けた発掘調査を進めています。

平成 26 年の発掘調査は、夷王山墳墓群の第 I・III・V 地区で和人数とアイヌ墓を判別するために、合計 60 基（各地区 20 基）の墓と考えられるマウンドを対象に行いました。調査は、レーダ及び磁気探査を実施して、強い反応を示したマウンドを中心に遺構上面まで掘削しました（表 1）。特に、第 I 地区の 59 号墓では、磁気探査で強い反応がみられたことから、大型の鉄製品などが副葬されている可能性が期待されましたが、30～40 cm の礫が出土するのみでした。同様に、第 V 地区の 20 号墓においても墓が未検出で礫が多くみられています。そのため、探査が礫に反応している可能性もあることから、今後は探査の成果を詳細に検討しながら史跡整備に活用したいと思えます。

表 1 発掘調査結果一覧（◎非常に強い反応、○強い反応、×反応なし）

地区名	墓番号	レーダ探査	磁気探査	発掘調査	礫	その他
I	4 8		○	土葬墓検出		
	5 2		○	土葬墓検出		
	5 8		○	墓未検出	○	5～40 cm 大の礫
	5 9		◎	墓未検出	○	5～40 cm 大の礫
	6 5	×	×	墓未検出		
	8 8	○		不明土壌検出		
III	2 3		○	攪乱（近現代）検出		
	3 8	○	○	土葬墓検出		
V	2 0		○	墓未検出	◎	5～15 cm 大の礫



III 地区 38 号墓



III 地区 38 号墓検出状況

この遺跡についてのお問い合わせや上ノ国町の遺跡をもっと知りたい方は

上ノ国町教育委員会

電話番号：0139-55-2230

<http://www.town.kaminokuni.lg.jp/hotnews/category/131.html>

よいちちょう のぼりちょうよんいせき
余市町 登町 4 遺跡 (登録番号 D-19-27)

調査理由：開発事業(道路)

調査地：余市町登町 202 番地 2 他

調査主体：余市町教育委員会

調査期間：平成 26 年 5 月 7 日～平成 26 年 10 月 31 日

調査面積：3,410 m²

調査の概要

登町 4 遺跡は余市町市街地から小樽に向かうフルーツ街道沿いの標高 20～50m を測る丘陵に位置しており、今年度の調査区はその丘頂部から伸びる緩やかな斜面にあります。

今年度調査で 3 年目となる登町 4 遺跡は、余市町内の数多くある遺跡の中で最も古い時代のもので、今年度は遺構として、竪穴状建物跡 3 基、T ピット（シカ等を捕獲するための罠）1 基、礫集中 2 ヶ所、剥片集中 3 ヶ所等が検出されました。

竪穴状建物跡は 3 基とも概ね 4～5m 程の大きさで、その内 1 基は、4 つの柱穴が確認されましたが、火を焚いた跡は見られませんでした。3 基とも縄文時代早期～前期に作られたものと考えられ、規模や検出状況から季節的な仮小屋ではないかと思われま

す。町内で初めて確認された T ピットは、細長い楕円形の溝状の掘り込みで、深さ約 90 cm を測り、底面には仕掛け等の跡は発見されませんでした。また礫集中 1・2 はチャート製のたたき石が多く出土し、剥片集中は 1 ヶ所が頁岩、他の 2 ヶ所は黒曜石の剥片が主体となって出土しており、狩りや石器製作を行っていた当時の様子がうかがえます。

出土遺物は、土器片 10,775 点、剥片・剥片石器 43,049 点、礫・礫石器 1,159 点、合計 57,983 点を数えます。土器は縄文時代早期～中期のものが主体で、石器類も概ねそれらに伴うものと思われま

す。その中でも特徴的なのが線刻礫です。長さ約 16 cm の扁平な礫に×字状の連続する線刻の他、縦横に走る多数の線が表裏両面に刻まれたものです。何らかの意図をもって製作されたと思われま



竪穴状建物跡発掘状況



線刻礫 表裏

この遺跡についてのお問い合わせや余市町の遺跡をもっと知りたい方は

余市水産博物館

電話番号：0135-22-6187

開館時間：9：00～16：30

閉館日：月曜日、祝日の翌日、12月上旬～翌年4月中旬まで冬期休館

休館中は平日であれば、お問い合わせに対応いたします。

よいちちよう のほりちちようじゆうさんいせき
余市町 登町13遺跡 (登録番号 D-19-64)

調査理由：開発事業（道路）

調査地：余市町登町312番地2

調査主体：余市町教育委員会

調査期間：平成26年5月7日～平成26年7月31日

調査面積：1,600㎡

調査の概要

登町13遺跡は余市町市街地から小樽に向かうフルーツ街道沿いの標高6m程の平坦部に位置し、登町4遺跡南西側の崖下に広がっています。遺跡の西側約150mには登川が流れており、治水対策が進む以前は度々氾濫し、周辺に湿地を形成していました。そのため、登町13遺跡の土層は複雑な堆積をしており、河川の水の影響を強く受けた状況が見てとれます。また、水田として利用された後、水はけの悪い土地を改良し畑地として使用するため、地下には暗渠配水管が設置されていました。

遺物は合計で52点の出土が見られました。河川の水の影響で遺物が本来の位置から移動していると思われ、調査区の北東半分に寄って出土しています。そのため土砂に採まれ土器の大半は角が取れ表面が擦り減って、文様もわずかに残る程度のものでした。かろうじて文様を読み取れ分類できたものは、縄文時代晩期～続縄文時代にあたるものと思われます。その他の出土遺物としては、スクレイパー等の石器や、陶磁器、銅貨等が出土しています。

なお、本調査の報告書は、登町4遺跡と合わせて平成27年2月末に刊行する予定です。



調査区遠景



出土遺物

この遺跡についてのお問い合わせや余市町の遺跡をもっと知りたい方は

余市水産博物館

電話番号：0135-22-6187

開館時間：9:00～16:30

閉館日：月曜日、祝日の翌日、12月上旬～翌年4月中旬まで冬期休館

休館中は平日であれば、お問い合わせに対応いたします。

旭川市 旭町1遺跡隣接地（旭町1遺跡の登録番号：F-01-73）

調査理由：詳細分布

調査地：旭川市北門町8丁目2641-4

調査主体：旭川市教育委員会

調査期間：平成26年7月22日

調査面積：76㎡

調査の概要

調査地は標高約110m、旭川市中心部の北西約3kmの平垣地に位置する旭川市の所有地です。昔は石狩川の支流が流れており、この一帯では旭町1遺跡や錦町5遺跡などといった擦文時代（8～13世紀頃、本州の奈良・平安～鎌倉時代と同時期）の住居の跡や土器・石器などが複数見つかっています。今回の調査は、市所有地の現状を把握することを目的として行いました。

試掘調査の結果、調査地は河川の氾濫が起りやすい地域だったことや、過去に建物の基礎工事などによって土が掘り返されていたことが判明し、土器や鉄器、住居の跡などの埋蔵文化財は確認されませんでした。

写真や図面などの記録を作成後は調査時に掘った穴は埋め戻し、調査を終了しました。



調査地及び旭町1遺跡位置図

この遺跡についてのお問い合わせや旭川市の遺跡をもっと知りたい方は

旭川市教育委員会社会教育部文化振興課

所在地：旭川市6条通8丁目 セントラル旭川ビル7階

電話番号：0166-25-7558

業務時間：8時45分～17時15分

（土日祝日及び12月30日～1月4日はお休み）

なかがわちょう あべしないがわうがん
中川町 安平志内川右岸遺跡（登録番号F-24-7）

調査理由：詳細分布（保存目的の測量・確認調査）

調査地：中川町字富和3番地1，1番地1および天塩川河川敷地

調査主体：中川町教育委員会

調査期間：平成26年9月24日から10月17日

調査面積：339.82㎡

調査の概要

安平志内川右岸遺跡は、天塩川と安平志内川の合流地点の安平志内川右岸に位置します。そのすぐ北の舌状丘陵の先端にオフイチャシ跡があり、平成23年度の調査で、オフイチャシ跡は1739年の樽前山の噴火以前につくられた自然地形を利用した天塩川流域で最大のチャシであることが明らかになりました。また、チャシ跡直下の安平志内川右岸遺跡では、ガラス玉や鉄器、陶器片などが発見されました。そこで平成26年度の調査は、チャシを利用したアイヌの人たちの生活の場のひろがりを確認することを目的としました。

平成26年の調査は、国道40号線の北側の安平志内川右岸遺跡第Ⅰ区、第Ⅱ区で実施され、第Ⅱ区では、開拓期以降の陶器片、玩具、釘の他、浅いレベルから焼土、炭化物が検出されましたが、それ以前の時期のものは確認されませんでした。一方、オフイチャシ跡の尾根の延長線上の斜面にあたる第Ⅰ区からは、黒曜石製石器、土器片、切断跡のあるヒグマ骨、鉤状鉄器、カワシジュガイおよび炭・炭化植物等が出土しました。年代測定の結果から、石器・土器片を除いて17世紀後半～20世紀前半の近世アイヌ期～近代に相当します。なお報告書は平成27年3月に刊行予定です。



調査地空中写真



出土した鉤状鉄器

この遺跡についてのお問い合わせや中川町の遺跡をもっと知りたい方は

中川町教育委員会（安平志内川右岸遺跡について）

電話番号：01656-7-2877

中川町エコミュージアムセンター（町内の遺跡について）

電話番号：01656-8-5133

住所：〒098-2626 北海道中川郡中川町字安川 28-9

開館時間：9:30～16:30、閉館日：月曜日・年末年始・冬期間；11月～翌年4月要問合せ

わかかないし く と お べ つ さ が ん に い せ き
稚内市 クトネベツ左岸2遺跡（登録番号 H-01-91）

調査理由：開発事業（農業関連）

調査地：稚内市

調査主体：稚内市教育委員会

調査期間：平成 26 年 7 月 7 日～9 月 16 日

調査面積：12,300 m²

調査の概要

クトネベツ左岸 2 遺跡は、市街地から南西の方角へ 10 km ほど離れた日本海に流れるクトネベツ川の河口部に位置しています。遺跡は標高 10m ほどの河川段丘上に立地しており、平成 6 年に稚内市教育委員会が実施した遺跡の分布調査により確認されました。

平成 26 年度の調査では、擦文時代の竪穴住居址と考えられる遺構が 10 基確認されました。竪穴には、10m 前後の大型のものも含まれており、大型の住居址を中心にいくつかの時期に分けて、集落が形成されていたと考えられます。

今回の調査の報告書は平成 27 年 3 月末に刊行予定となっています。



クトネベツ左岸 2 遺跡の竪穴住居址（窪みのあと）

この遺跡についてのお問い合わせや稚内市の遺跡をもっと知りたい方は

稚内市教育委員会総務課（当遺跡について） 電話番号：0162-23-6518

稚内市北方記念館（稚内市内の遺跡について）

住所：北海道稚内市ヤムワッカナイ

電話番号：0162-24-4019

開館期間：4/29～10/31

休館日：毎週月曜日（月曜日が祝日の時は、その翌日。但し 6/1～30 は無休。）

開館時間 4/29～5/31、10/1～31：午前 9 時～午後 5 時、6/1～9/30：午前 9 時～午後 9 時

はまのんべつちよう ふたうすいせき
浜頓別町 ブタウス遺跡 (H-03-20)

調査理由：開発事業（国道改良）

調査地：枝幸郡浜頓別町字ブタウス 201-26、字頓別 3081-9、3181-2

調査主体：浜頓別町教育委員会

調査期間：平成 26 年 5 月 19 日～10 月 30 日

調査面積：3,633m

調査の概要

遺跡は浜頓別町市街地から南東に約 6 km、オホーツク海岸に形成された標高 2～6m の砂丘上に位置します。遺跡の西部が低湿地に面し、これを挟んだ約 200m 内陸側の段丘上には豊寒別段丘遺跡があり、擦文時代の集落遺跡となっています。

昨年度までの調査で 4,359 m² の面積を調査し、墓塚・集石炉などの遺構を多数検出しました。今年度の調査でも、墓塚 8 基・集石炉 25 カ所・建物状遺構 1 軒・焼土 59 カ所・土坑 40 基・小穴 129 基・小穴列 1 列等多数の遺構を検出しました。墓塚では、多数の石鏃や手の平大の黒曜石製ナイフ、琥珀製平玉等が副葬品として出土しています。また、今年の調査区内には低湿地も含まれており、杭などの木製品や木材が数点出土しました。

主な遺物は土器・石器・琥珀玉・礫があり、コンテナで 50 箱分出土しました。土器は縄文時代晩期幣舞式～統縄文初頭のものと考えられるものが大半を占めます。石器は剥片石器が多く、礫石器は僅かしか出土しませんでした。剥片石器では、石鏃・石槍・削器・搔器などの器種もありますが、剥片の一部に刃部をもつものや不定形の剥片に使用痕をもつものが多く出土しました。礫石器は敲石・砥石・石斧などの器種があります。剥片素材には黒曜石が多く使われていますが、頁岩・珪質岩・石英などもあります。黒曜石の原石やフランク・チップなども多く出土しているため、当地で石器制作が行われていた可能性があります。

宗谷地方において、縄文時代晩期の遺跡の調査事例が少ないことから当時の生活を復元するうえで重要な調査であるとともに、北海道内の同じ時期の遺跡と比較できる貴重な遺跡です。

報告書の刊行は平成 28 年度を予定しています。



調査区全景（赤：H24 年度調査範囲、青：H25 年度調査範囲、黄：H26 年度調査範囲）



墓塚内遺物出土状況（石鏃・琥珀玉出土）

この遺跡についてのお問い合わせや浜頓別町の遺跡をもっと知りたい方は

浜頓別町教育委員会社会教育係

住 所：枝幸郡浜頓別町中央北2番地

電話番号：01634-2-4666

きたみし なかのしまいせき
北見市 中ノ島遺跡 (登録番号：I-02-47)

調査理由：詳細分布

調査地：北見市中ノ島3丁目17-1・2

調査主体：北見市教育委員会

調査期間：平成26年10月20日から10月31日

調査面積：210.09㎡

調査の概要

中ノ島遺跡は北見市街地から南西に約3km離れた、常呂川と無加川合流部付近の河岸段丘上に位置しています。本遺跡は、昭和48年～51年・昭和60年に発掘調査が行なわれた結果、縄文時代・続縄文時代・擦文文化期・アイヌ文化期と、長期間にわたり断続的に活用されてきた地点であることがわかりました。

平成26年の調査では過去の調査の未調査地点で確認調査を行ないました。今回調査した地点は、畑の攪乱を受けていましたが、アイヌ文化期の送り場跡や擦文文化期の住居跡1基などを確認できました。また、他にも旧小河川の痕跡や、その傾斜面付近で縄文土器(晩期)・石器・石皿などが集中して出土しました。

擦文文化期の住居は、一辺約5mの方形となり、カマドと炉が設けられていました。また、住居内側の壁面付近には直径15cm未満の柱穴と考えられる穴が点在していました。住居内からは土器や石器などの遺物は出土しませんでした。炭化した木材や焼けた土などがいくつか見ついているため、焼失した住居と考えられます。

アイヌ文化期の送り場跡は灰白色の灰層で覆われ、灰層内からは骨針や人為的なキザミのある鹿骨、カワシングガイやタマキガイなどの貝類が出土しました。

中ノ島遺跡は北海道の歴史のほぼ全ての時期に活用されているという特徴をもち、出土遺物の一部は北見市指定文化財として、北網圏北見文化センターにて展示しています。



擦文文化期の住居跡の完掘状況



出土したアイヌ文化期の骨針

この遺跡についてのお問い合わせや北見市の遺跡をもっと知りたい方は

北見市教育委員会文化財課 (中ノ島遺跡について)

電話番号：0157-23-6742、メールアドレス：bunkazai@city.kitami.lg.jp

北網圏北見文化センター (北見市内の遺跡について)

住所：北海道北見市公園町1、電話番号：0157-23-6700、開館時間：9:30～16:30

しゅりちやう かわかみいちいせき
斜里町 川上 1 遺跡（登録番号：I-08-90）

調査理由：開発事業（道路）

調査地：斜里郡斜里町字川上 190 番地町道敷地

調査主体：斜里町教育委員会

調査期間：平成 26 年 5 月 15 日から 8 月 27 日

調査面積：1,281 m²

調査の概要

川上 1 遺跡は、斜里町市街地から清里市街地へ約 10 km 南西に進んだ斜里川右岸段丘上に立地する縄文中期の集落です（GPS データ：北緯 43° 51′ 17″、東経 144° 37′ 24″ 付近）。

当遺跡は、平成 25 年度から調査を実施し、本年度が調査最終年となります。本年度の調査で確認できた基本層位は、I 層（旧耕作土層）、VI 層（摩周 b・5 軽石層）、VII 層（黒～黒褐色土層：遺物包含層）、VIII 層（暗～褐色土層）、IX 層（黄褐色ローム層）でした。VII 層からは縄文中期の遺物が多く出土しており、同層下部からは縄文早期の遺物も出土しています。

遺構は、縄文中期の竪穴住居跡 5 棟や土坑 24 基、木炭集中地点、焼土遺構などが確認できました。

遺物は、土器 54 点、石器 575 点、木炭 65 点、その他（レキなど）15 点の合計 709 点が出土しました。土器は、縄文中期のトコロ 6 類が最も多く出土し、縄文早期の東釧路Ⅲ式もわずかに出土しています。石器では、黒曜石製のナイフ、石鏃、石槍、スクレイパー、リタッチド・フレイク等が出土しました。

平成 27 年度 3 月に報告書を刊行する予定です。



発掘調査風景



竪穴住居跡完掘状況

この遺跡についてのお問い合わせや斜里町の遺跡をもっと知りたい方は

斜里町立知床博物館

電話番号：0152-23-1256

<http://shirtoko-museum.mydns.jp>

斜里町埋蔵文化財センター

電話番号：0152-23-2017

しゅりちやう ちやし こつみさきうせいせき
斜里町 チャシコツ岬上遺跡 (登録番号：I-08-21)

調査理由：学術調査（詳細分布調査）

調査地：斜里郡斜里町ウトロ西地先 1377 林班

調査主体：斜里町教育委員会

調査期間：平成 26 年 9 月 2 日から 9 月 30 日

調査面積：40 m²

調査の概要

チャシコツ岬上遺跡は、斜里町ウトロ市街地から斜里町市街地に約 2 km 南西に進んだオホーツク海に突き出た海岸段丘上に立地しています（GPS データ：北緯 44° 3′ 53″、東経 144° 58′ 55″ 付近）。この段丘面の平坦地上には竪穴住居跡が 31 棟あり、オホーツク文化期末期（9 世紀～10 世紀）を主とした集落跡と考えられます。

当遺跡は昨年度より調査が実施され、本年度は、トレンチ 1 列の調査と崖際で自然崩壊の恐れがある竪穴住居跡 1 棟を実施しました。調査の結果、トレンチ内からはオホーツク文化期の土坑墓・土坑各 1 基、焼土遺構が検出されました。特に、土坑墓内からは完形のオホーツク貼付文土器（被瓶）、人の歯、石器等が見つかりました。竪穴住居跡からは覆土上部に大きなレキを敷いた配石遺構が検出されました。配石が途切れていた中央より東側の同一層面には、底部と口縁部を壊しているトビニタイ土器や獣・魚骨等が出土しています。本年度、この住居は完掘まで至りませんでした。床面付近より出土した土器や覆土中から検出された炭化物・焼骨などからオホーツク文化期の焼失住居と推察されます。

遺物の出土点数は、合計 2,389 点でした。遺物のうち土器の主体は、オホーツク貼付文土器で、わずかにオホーツク刻文土器、トビニタイ土器のほか、縄文前・中期の土器片も見つかっています。石器では、ナイフ・石鏃・石銛・搔器等のほか、レキ石器の石皿、敲石、すり石などが出土しました。



土坑墓（中央が被瓶土器）検出状況



竪穴住居跡覆土上層の配石遺構

この遺跡についてのお問い合わせや斜里町の遺跡をもっと知りたい方は

斜里町立知床博物館

電話番号：0152-23-1256

<http://shirtoko-museum.mydns.jp>

斜里町埋蔵文化財センター

電話番号：0152-23-2017

とまこまいし かしわぼらごじゅうに・ごじゅうさん・ごじゅうよん・ごじゅうごい せき
苫小牧市 柏原52・53・54・55遺跡 (登録番号 J-02-274・275・276・277)

調査理由：開発区域詳細分布

調査地：苫小牧市字柏原118、123-6・14

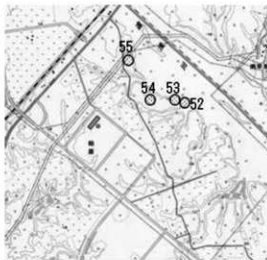
調査主体：苫小牧市埋蔵文化財調査センター

調査期間：平成26年6月17日～平成26年8月6日

調査面積：2,151㎡（1.5×6mの試掘溝239本）

調査概要

苫東開発地域内柏原地区で遺跡の詳細分布調査によって、4遺跡を新たに発見しました。柏原52遺跡では縄文時代中期・晩期、続縄文時代の土器15点、剥片・碎片16点が出土しています。柏原53遺跡では石斧見成品が1点、礫1点が出土しています。柏原54遺跡では落し穴が1基確認されています。柏原55遺跡からは石斧未成品1点、石錘2点、礫3点出土しています。時期は柏原52遺跡が縄文・続縄文時代で、他は縄文時代です。



柏原52～55遺跡位置図

とまこまいし ゆうふりいち・に・さんいせき
苫小牧市 勇振1・2・3遺跡 (登録番号 J-02-278・279・280)

調査理由：レジャー施設建設

調査地：苫小牧市字植苗620-1、581-1

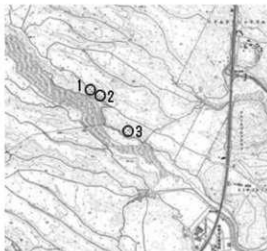
調査主体：苫小牧市埋蔵文化財調査センター

調査期間：平成26年8月7日～8月14日

調査面積：297㎡（1.5×6mの試掘溝33本）

調査概要

植苗地区でのレジャー施設建設に伴う試掘調査により、3遺跡を新たに発見しました。勇振1遺跡では、石錘1点、敲石破片1点、礫3点出土しています。勇振2遺跡では石のみ1点、北海道式石冠破片1点、礫1点出土しています。勇振3遺跡では縄文時代中期の天神山式土器1点、敲石2点、礫1点出土しています。3遺跡とも勇払川左岸の標高50mを越す河川との比高差40mほどの丘陵平坦部に位置しています。また、今まで遺跡の存在が知られていなかった地域での発見です。時期は勇振3遺跡が縄文時代中期で、他は縄文時代です。



勇振1・2・3遺跡位置図

この遺跡についてのお問い合わせや苫小牧市の遺跡をもっと知りたい方は

苫小牧市埋蔵文化財調査センター

所在地：苫小牧市末広町3丁目9番7号

電話番号：0144-35-2552

閉館日：月曜日・月曜日が祝日の場合翌日、年末年始

あつまちょう かみほろない に いせき
厚真町 上幌内2遺跡 (登録番号 J-13-91)

調査理由：開発事業（ダム）

調査地：勇払郡厚真町字幌内 374-2・3、357-1 ほか

調査主体：厚真町教育委員会

調査期間：平成 26 年 5 月 13 日～10 月 31 日

調査面積：7,443 m²

調査の概要

上幌内 2 遺跡は厚真川河口から約 35 km、厚真市街地から約 15 km 山間部に入った厚真川上流域の幌内地区に所在し、標高約 68m～70m の河岸段丘上に立地しています。

擦文・中世アイヌ文化期の遺構は土坑墓(アイヌ墓)5基、焼土 8ヶ所、土坑 1基、土器集中 6ヶ所等を検出しました。遺物は金属製品等 79点を含め計 3,420点が出土しています。アイヌ墓は西側段丘縁辺部に 1・2・4・5号墓、南側の平坦面に 3号墓を検出しました。西側と南側の墓は封土に被覆する黒色土の厚さから前者が後者よりも新しく、墓坑造成面形態も前者が方形タイプ、後者が円形タイプと異なります。この形態については、これまでの町内の調査事例で方形タイプが古く、円形タイプが新しいことが判明しているため、今回の結果とも矛盾しません。土坑墓に副葬されている遺物は刀剣類を中心とした金属製品が多いですが、1号墓からは丸盆と推定される漆塗膜片、2号墓からは漆の鞘に入った腰刀、5号墓からは 12 世紀中葉の和鏡「秋草双鳥文鏡」等、当時の流通を示す貴重な資料が出土しています。和鏡は道内のアイヌ墓出土資料の中で最古であり、古さを示す要素として同じ土坑墓に転礫の黒曜石が副葬されていることも重要な事実として挙げられます。

縄文時代の遺構は竪穴式住居跡 1軒、Tピット 26基、土器集中 13ヶ所等が検出されています。遺物は縄文時代早期後半の中茶路式、東釧路 IV 式から前期後半の円筒下層 a 式並行の平底土器、中期後半の柏木川式、後期前半の余市式、後期後半の堂林式まで幅広い時期の土器や石器類等、計 21,826 点が出土しています。また、東側段丘崖裾で竪穴式住居跡と東釧路 IV 式土器がまとまって出土し、北西先端側からは堂林式土器の集中とこれに伴う焼土を検出しました。報告書の刊行は平成 27 年度を予定しています。



2号墓副葬品出土状態(刀剣類など)



5号墓副葬品 和鏡および古銭

この遺跡についてのお問い合わせや厚真町の遺跡をもっと知りたい方は

厚真町教育委員会生涯学習課社会教育グループ

電話番号：0145-27-2495

メールアドレス：atsuma.hakkutsu@bz01.plala.or.jp

あつまちょう かみほろないらいせき
厚真町 上幌内1遺跡 (登録番号 J-13-30)

調査理由：開発事業(ダム)
調査地：厚真町幌内 372-1～3
調査主体：厚真町教育委員会
調査期間：平成 26 年 5 月 13 日から 8 月 22 日
調査面積：9,022 m²

調査の概要

上幌内1遺跡は、厚真川河口から北東に約 34 km、厚真町市街地から約 15 km 離れた、厚真川左岸の段丘上(標高 65.8～73.6m)に立地しています。段丘は北東から南西にかけて緩やかに傾斜し、南端は厚真川に合流する支流に開析されています。支流を挟んで下流側には上幌内2遺跡が位置しています。遺跡の北半分は既に畑地造成により削平を受けていましたが、今回の調査では、Ta-c 火山灰(約 2,500 年前)を挟んで上下の黒色土から、縄文時代早期～アイヌ文化期の遺構、遺物が発見されました。

続縄文文化期～アイヌ文化期の遺構では、平地式住居跡 4 軒、建物跡 2 軒、集中区 1 ヲ所、土坑 6 基、杭列跡 3 条、屋外炉 15 ヲ所、土器集中 4 ヲ所、礫集中 2 ヲ所、獣骨集中 9 ヲ所、鉄鍋片集中 1 ヲ所が見つかっています。平地式住居跡の時期は、層位から中世アイヌ文化期であると考えられます。3 軒の主軸は東に向き、1 軒は南東に向いている。平地式住居跡 1・2 の主軸方向には、未被熱骨で構成される獣骨集中が位置しております。送り場跡であったと思われる。この他には、縄文時代の T ビット埋没後の浅い窪みに、鉄鍋の破片が被熱礫とともにまとまって廃棄される鉄鍋片集中が検出されました。鉄鍋は口縁の幅の違いから 2 個体あると思われる。出土した遺物は、擦文文化期後期や続縄文文化期前期の土器 650 点、石器類 1,525 点、その他 49 点で合計 2,224 点です。

縄文時代の遺構では、竪穴式住居跡 1 軒、T ビット 47 基、土器集中 13 ヲ所、礫集中 5 ヲ所が見つかりました。T ビットは、平面形が楕円形タイプのもが多く、削平を受けていない地点では掘り上げ土が確認されました。出土した遺物は、縄文時代早期後葉東釧路 IV 式、中期中葉柏木川式、後期前葉タブコブ式などの土器 1,287 点、石器類 1,296 点、その他 1 点の計 2,584 点です。報告書の刊行は平成 27 年度を予定しています。



平地式住居跡 1



鉄鍋出土状態

この遺跡についてのお問い合わせや厚真町の遺跡をもっと知りたい方は

厚真町教育委員会生涯学習課社会教育グループ

電話番号：0145-27-2495

メールアドレス：atsuma.hakkutsu@bz01.plala.or.jp

あつまちょう しよろ まいらいせき
厚真町 ショロマ1遺跡 (登録番号 J-13-81)

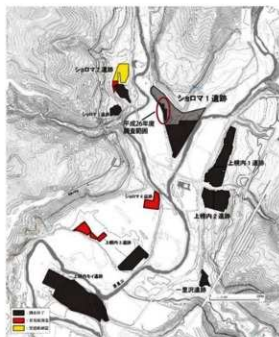
調査理由：開発事業（ダム）
調査地：勇払郡厚真町字幌内 93-1 ほか
調査主体：厚真町教育委員会
調査期間：平成 26 年 9 月 2 日～10 月 31 日
調査面積：853 ㎡

調査の概要

厚真町は北海道胆振総合振興局管内の東部に位置し、埋蔵文化財包蔵地として登録されている遺跡数は平成 27 年 1 月現在で 136 ヶ所にのぼります。ショロマ 1 遺跡は、平成 14 年から開始された厚幌ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘事業として平成 25 年から継続して調査しています。遺跡は厚幌ダム湛水区域内の幌内地区に所在しています。この湛水区域内の遺跡は厚真川河口から 30km 以上北の厚真川上流域の山間部にあります。このような山間部に大規模な遺跡が残された理由として北に夕張市紅葉山地区、東はむかわ町穂別・稲里地区、南東は同町豊田地区に抜ける山越えルート上の遺跡群であったためと考えられます。今年度、厚真町教育委員会では市街地から約 18km、標高約 68m の厚真川とショロマ川の合流点にあるショロマ 1 遺跡とショロマ川を挟んで西側に位置するショロマ 2 遺跡、厚真川を挟んで東側に位置する上幌内 1 遺跡、上幌内 2 遺跡、一里沢遺跡の 5 遺跡を発掘調査しました。この他、北海道埋蔵文化財センターで上幌内 3 遺跡、上幌内 4 遺跡、ショロマ 4 遺跡、オニキシベ 3 遺跡の合計 9 遺跡を発掘調査しました。

ショロマ 1 遺跡の調査では、昨年度、アイヌ文化期の平地式住居跡や縄文時代の竪穴住居跡等、縄文時代早期～晩期、続縄文文化期、擦文文化期、アイヌ文化期まで、各時代の遺構・遺物が発見されました。今年度はショロマ川に面する調査区の北西側 853 ㎡の発掘調査を行いました。近年まで畑として利用されていたことから、調査開始の時点でアイヌ文化期・擦文文化期の地層の大半が削平されていたため、検出した遺構や遺物は縄文時代の T ビット 8 基と縄文時代後期初頭の土器集中 2 ヶ所にとどまりました。遺物の出土量も少なく、土器が 272 点、剥片石器が 10 点、礫石器 44 点、礫 400 点でした。

ショロマ 1 遺跡は平成 27 年度も発掘調査を継続します。平成 25 年度の調査報告書は本年 3 月の刊行を予定しています。



ショロマ 1 遺跡周辺図



平成 26 年度ショロマ 1 遺跡 T ビット配列

この遺跡についてのお問い合わせや厚真町の遺跡をもっと知りたい方は

厚真町教育委員会生涯学習課社会教育グループ

電話番号：0145-27-2495

メールアドレス：atsuma.hakkutsu@bz01.plala.or.jp

あつまちょう しよろまにいせき
厚真町 ショロマ2遺跡(登録番号J-13-92)

調査理由：開発事業(ダム)

調査地：勇払郡厚真町 96-1

調査主体：厚真町教育委員会

調査期間：平成 26 年 5 月 13 日から 7 月 31 日

調査面積：3,647 ㎡

調査の概要

ショロマ2遺跡は厚真町市街地から北西に 11.7 km ほど離れた、厚真川支流ショロマ川右岸の標高 71m 前後の河岸段丘上に位置しています。遺跡内や隣接して湧水地点があり、密接な関係が想定されます。平成 25 年度に続き 2 年目の調査で、縄文時代中期後葉や後期初頭から前葉にかけての竪穴式住居跡 6 軒や被熱礫の集中 32 ヲ所、Tピット 45 基が検出されています。Tピットは細長い溝状タイプが主体で、延長約 70m の配列も確認されています。調査は今年度をもって終了となります。

平成 26 年度の調査は重機と人力併用の遺構確認調査が主体でしたが、遺構は竪穴式住居跡 1 軒、土坑 7 基、Tピット 12 基(溝状タイプ 9 基、楕円形タイプ 3 基)、焼土 5 ヲ所、礫集中 5 ヲ所を検出しています。竪穴式住居跡は平面形が不整円形を呈し、床面のほぼ中央には石囲炉が確認されています。石囲炉は掘り込みをもち 3 個の板状礫で構成されています。出土遺物は縄文時代前期の植物繊維を多量に含む土器や縄文時代中期の萩ヶ岡 1・2 式、天神山式土器、後期の余市式やタブコブ式土器を主体とする土器 305 点、石器類 242 点など計 2,517 点が出土しています。

調査区内の西側には縄文時代早期以降、現代までの間に背後の急傾斜地からの 4 枚に及ぶ地すべり堆積物が堆積しており、Tピットや礫集中が地すべり堆積土により被覆しています。礫集中は構成礫が拳大の被熱破砕礫と板状の大型礫のものと 2 タイプがあり、前者は縄文時代前期ないしは中期のもので、炭化したクルミ殻も出土しています。後者は出土層位より縄文時代後期前葉のものと思われる。

発掘調査報告書は平成 25・26 年度の 2 ヲ年分を平成 27 年 3 月に刊行致します。



調査区空撮(西から)



被熱礫集中(東から)

この遺跡についてのお問い合わせや厚真町の遺跡をもっと知りたい方は

厚真町教育委員会生涯学習課社会教育グループ

電話番号：0145-27-2495

メールアドレス：atsuma.hakutsu@bz01.plala.or.jp

あつまちょう いちりざわいせき
厚真町 一里沢遺跡（登録番号 J-13-80）

調査理由：開発事業（ダム）
調査地：勇払郡厚真町字幌内 388-4 ほか
調査主体：厚真町教育委員会
調査期間：平成 26 年 8 月 6 日～10 月 31 日
調査面積：1,497 m²

調査の概要

本遺跡は、厚真川河口から約 33km、厚真市街地から約 18km の厚真川上流域にあり、一里沢川の沢口、標高約 76m の河岸段丘上に立地しています。

発掘調査は擦文文化期主体のⅢ層と縄文時代のⅤ層の 2 枚の黒色土の調査を行いました。

Ⅲ層の遺構は焼土が 5ヶ所、土器集中が 2ヶ所で、遺物は土器 121 点、石器類 16 点、金属製品 4 点、礫 85 点の計 226 点が出土しています。土器集中は擦文文化期後期の土器です。

Ⅴ層の遺構は焼土 3ヶ所、土坑 5 基、Tピット 48 基、土器集中 17ヶ所、礫集中 4ヶ所で、遺物は、土器 1619 点、石器類 537 点、礫 1357 点の計 3536 点です。縄文時代早期、中期、後期の土器が出土しています。縄文時代早期後半の中茶路式、東釧路Ⅳ式が出土していますが、早期の遺物分布の特徴として、段丘縁辺部に集中がみられ、中茶路式とともに断面三角形のすり石が出土しています。また、同遺跡内からは松原技法によるつまみ付きナイフ、柳葉状の石鏃などが出土しています。中期の遺物は円筒上層式土器や鉢巻状に敲打を施した北海道式石冠などが出土しています。土器集中からは縄文時代後期前葉のタブコブ式土器などが出土しています。

Tピットは 48 基が検出され、ここが狩り場として利用されていたことがうかがえます。重複する Tピットはほとんどなく、埋没する前に次の Tピットが掘られたと考えられます。48 基中 46 基が楕円形のタイプで、ほとんどの Tピットの底には逆茂木跡が認められました。また多くが掘り上げ土を伴うもので、構築面を確認することが出来ました。杭跡の一部からは杭の木質が残存しているものがあり、樹種の分析調査を行う予定です。報告書の刊行は平成 27 年度を予定しています。



すり石を伴う早期の土器集中（中茶路式）



逆茂木跡のある Tピット

この遺跡についてのお問い合わせや厚真町の遺跡をもっと知りたい方は

厚真町教育委員会生涯学習課社会教育グループ

電話番号：0145-27-2495

メールアドレス：atsuma.hakkutsu@bz01.plala.or.jp

むかわ町 ^{ちょう}ニ ^に ^さ ^な ^い ^ち ^ゃ ^し ^あ ^とニサナイチャシ跡 (登録番号：J-14-81)

調査理由：詳細分布調査

調査地：むかわ町徳別461

調査主体：むかわ町教育委員会

調査期間：平成26年7月1日から7月22日

調査面積：28 m²

調査の概要

ニサナイチャシ跡は、中世アイヌ文化期にアイヌ民族の手によって築き上げられたと考えられる大型の構造物です。ニサナイチャシ跡は、崖に面して半楕円形に巡る大型の壕とその内側に盛土を備えます。全体の規模は現況で南北約19m×東西約29m、壕の深さは約0.8mです。

鶴川流域では、ニサナイチャシ跡のような大型の構造物が、特に徳別地区において12基も集中して確認されており、その多くが徳別市街地の周辺に位置しています。チャシ跡は鶴川を望む崖上や小高い丘の上に築かれております。ニサナイチャシ跡の場合は、徳別川と鶴川の合流地の東岸に発達した河岸段丘の縁辺部に立地しており、チャシ跡からは徳別市街地を一望できます。

今回の発掘調査では、平板測量によりニサナイチャシ跡の現況を平面図に記録した上で、小規模の試掘坑を3基掘削して遺構や遺物の内容を確認しました。発掘調査の結果、ニサナイチャシ跡の壕には掘り直しをした痕跡が認められ、また盛土の直下からはチャシ跡の盛土構築以前もしくは構築中に形成されたと考えられる焼土跡が発見されました。チャシ跡の外側からアイヌ文化期の集石遺構も発見されました。ニサナイチャシ跡の年代については、礫以外の遺物が出土しなかったため、盛土直下の焼土跡から採集した木炭を試料として炭素年代測定調査を実施しました。測定結果はAD1,040～1,220年14CBPであり、年代幅の新しい値をとればニサナイチャシ跡の年代は13世紀となります。



ニサナイチャシ跡全景



盛土直下から検出した焼土跡

この遺跡についてのお問い合わせやむかわ町の遺跡をもっと知りたい方は

むかわ町教育委員会生涯学習課社会教育グループ

電話番号：0145-42-2487

メールアドレス：skyouiku@town.mukawa.lg.jp

むかわ町 ^{ちよう} の ^{つと} か ^{ちや} し ^{あつと} ノットカチャシ跡 (登録番号: J-14-76)

調査理由: 自然崩落による緊急発掘調査

調査地: むかわ町穂別豊田507-1

調査主体: むかわ町教育委員会

調査期間: 平成26年9月1日から10月31日

調査面積: 100 m²

調査の概要

ノットカチャシ跡は、中世アイヌ文化期にアイヌ民族の手によって築き上げられたと考えられる大型の構造物です。ノットカチャシ跡は、自然崩落の進行によりチャシ跡の半分以上が失われたため、現在は南北約21m×東西約9mの狭小な範囲内に、崖に面してL字形に巡る壕と盛土が残されています。

発掘調査の結果、ノットカチャシ跡からは構築時期の異なる2つのチャシ跡が発見されました。新しい時期のチャシ跡の盛土の下に、古い時期のチャシ跡の壕の一部が埋められていたため、古い時期のチャシ跡を発見できました。古い時期のチャシ跡は南北約11m×東西4mにかけて検出されましたが、新しい時期のチャシ跡の構築によって古い時期のチャシ跡の大部分が壊されていたために、その全様については不明瞭な点が多く残りました。

ノットカチャシ跡の年代については、裸以外の遺物が出土しなかったため、壕の覆土中に形成された焼土跡の木炭を試料として炭素年代測定調査を実施しました。測定結果はAD1,295~1,410年14CBPでした。年代幅の最も新しい値をとれば年代は15世紀となります。今年度調査を実施したニサナイチャシ跡の成果も含め、鶴川流域には年代の古いチャシ跡が複数存在する可能性が見えてきました。



発掘調査前のノットカチャシ跡



ノットカチャシ跡全景

この遺跡についてのお問い合わせやむかわ町の遺跡をもっと知りたい方は

むかわ町教育委員会生涯学習課社会教育グループ

電話番号: 0145-42-2487

メールアドレス: skyouiku@town.mukawa.lg.jp

だてし わっかおいがいづか
伊達市 若生貝塚（登録番号 J-04-3）

調査理由：学術調査

調査地：伊達市東有珠町 5-1

調査主体：伊達市教育委員会

調査期間：平成 26 年 5 月 1 日～11 月 7 日

調査面積：42.35 ㎡

調査の概要

若生貝塚は噴火湾東岸の伊達市東有珠町に位置する縄文前期の貝塚です。

若生貝塚における最初の調査は、大正末期頃に N.G マンローによっておこなわれた現地踏査と遺物採集であるといわれています。昭和 25・27 年には、峰山巖率いる伊達高校郷土研究部による調査がおこなわれ、4カ所の貝塚（A～D 地点）が発見されました。この調査の現地指導にあたった名取武光（当時北海道大学助教授）は「層位学的研究に於いては北海道最優秀の遺跡である」と、その学術的価値を評しています。

今回の調査は、噴火湾沿岸地域の環境変遷とそれに伴う人間活動の特質を明らかにすることを目的とした科学研究費助成事業（基盤研究（B）「北海道噴火湾沿岸の縄文文化の基礎的研究」（研究代表者：青野友哉）の一環としておこなわれました。昭和 27 年に峰山らによって発掘された A 地点貝塚の再発掘と周囲のボーリング調査を実施し、貝層断面の詳細な観察と図面作成、動物遺存体および土壌、年代測定用の試料サンプリングなどをおこないました。

調査の結果、峰山らの調査時には約 3m の厚さがあった貝塚の上部は耕作によって破壊され、現状で約 2.2m にまで層厚が減っていることが判明しました。ただし、遺存している部分の状態は極めて良好です。貝塚の平面規模は東西約 20m、南北 30m 以上と推定されます。また、峰山が火山灰層と報告した層の一部は、焼けた貝殻の灰の層であることが明らかになりました。さらに、貝層直下の土層を観察したところ、貝塚は人為的に掘削された場所（堅穴住居などの遺構、あるいは広範囲にわたる造成）の上に形成されたことが明らかになりました。今後は、科学分析をすすめ、当時の自然環境などについても明らかにしていきたいと考えています。

なお、若生貝塚の発掘調査は平成 27 年夏にも実施されます。今回の調査成果については、伊達市噴火湾文化研究所が発行する『Newsletter【噴火湾文化】』第 9 号に掲載予定です。



若生貝塚の貝層断面

この遺跡についてのお問い合わせや伊達市の遺跡をもっと知りたい方は

伊達市噴火湾文化研究所（若生貝塚について）

電話番号：0142-21-5050

史跡北黄金貝塚公園（伊達市の遺跡について）

所在地：伊達市北黄金町 75

電話番号：0142-24-2122

<http://www.funkawan.net/kitakoga/ktkgn.html>

開館時間：9:00～17:00（4月1日～11月30日まで期間内無休）

調査理由：詳細分布

調査地：様似郡様似町字冬島 39 番地

調査主体：様似町教育委員会

調査期間：平成 26 年 9 月 21 日

調査面積：4 m²

調査の概要

冬島遺跡は、様似町市街地から 6 km ほど離れた冬島地区に所在し、冬島川とボンサヌンベツ川に挟まれた海岸段丘上に立地しています。この遺跡は、昭和 56 年に地元郷土史愛好団体がその一部の発掘調査を行い、石囲炉をもつ竪穴住居跡が 1 基確認され、縄文時代中期から晩期の土器片や石鏃などが出土しました。しかし、その後長い間発掘調査は行われず、遺跡の詳細については不明なままでした。そのため今年度は、現況確認を含めた詳細分布調査を行いました。

今回の調査は、埋蔵文化財包蔵地についての知識を深めてもらうために、普及啓発と見学体験会を兼ねて実施しました。発掘調査には、町内外から参加者を募集した結果 7 名の応募があり、約 3 時間にわたり実際の発掘作業を見学して、一部の作業について体験してもらいました。

今回の発掘調査は、時間的な制約がある中での小規模な調査でしたが、縄文時代晩期の土器片や石鏃、削器など数 10 点の遺物が出土しており、冬島遺跡の重要性を改めて認識することができました。

様似町内では、これまで本格的に発掘を行った遺跡はありませんが、いにしへの様似の姿を明らかにしていくため、今後も発掘等による調査を進めていく予定です。



調査の様子



発掘の様子

この遺跡についてのお問い合わせや様似町の遺跡をもっと知りたい方は

様似町教育委員会 電話番号：0146-36-2521

びらとりちょう とよめかはらいせき
平取町 豊糠8遺跡 (登録番号：K-02-122)

調査理由：開発事業（ダム）

調査地：沙流郡平取町字豊糠1番地5

調査主体：平取町教育委員会

調査期間：平成26年5月19日から10月31日

調査面積：3,054㎡

調査の概要

遺跡は平取町市街地から北東に約40km離れた豊糠地区に所在します。現在、この豊糠地区には12か所の埋蔵文化財包蔵地が確認されていますが、発掘調査が実施されたのは平成24年度の豊糠10遺跡に次ぎ、2か所目となります。

遺跡は額平(ぬかびら)川に架かる豊糠橋の下流300mの右岸側に位置しており、豊糠10遺跡からは約600m下流になります。

遺跡の地形は額平川の旧流路内にあつて、中州状に残された独立丘状となっています。調査の範囲は、ダム完成後の常時満水位(167.4m)以下の包蔵地4,028㎡が対象となつていて、平成25年度に974㎡、平成26年度に3,054㎡を発掘しました。

調査範囲内からは、昨年同様に掘り込みのある遺構は発見されませんでした。樽前b降下火山灰(1667年)以下の遺物包含層から縄文時代中期～続縄文時代までの土器・石器等のほか、擦文時代の土器や金属製品など総数約57,000点の遺物が出土しています。

これらの詳細については、平成27年度末までにまとめ、報告書を刊行する予定です。



遺跡遠景(RCヘリ撮影)



擦文土器出土状況

この遺跡についてのお問い合わせや平取町の遺跡をもっと知りたい方は

沙流川歴史館

所在地：沙流郡平取町字二風谷 227-2

電話番号：01457-2-4085

F A X：01457-2-4086

メールアドレス：sar.muse@town.biratori.hokkaido.jp

開館時間：9時から16時30分まで

休館日：月曜日(月曜日が祝日の場合はその翌日)、年末年始

調査理由：詳細分布

調査地：厚岸郡厚岸町住の江4丁目13

調査主体：厚岸町教育委員会

調査期間：平成26年8月30日～9月2日

調査面積：4㎡

調査の概要

オカレンボウシ貝塚は、厚岸町役場から北に2.2kmほど離れた、厚岸湖に面する舌状丘陵の南側斜面に位置し、大半は大正時代の鉄道工事や大正15年に京都大学の清野博士が行った調査で乱されています。

今回は、平成17年の調査箇所での時間的制約のため未確認であった角礫下の遺構の有無の確認と、東側斜面での貝層の範囲確認を主目的として実施しました。

角礫下については遺構がありませんでしたが、トレンチにより貝層の範囲が明確になり、縄文式土器を含む土器片87点と剥片35点が出土しました。

なお、遺跡へ行くには手続きが必要ですので、必ず連絡してください。



遺跡位置図

この遺跡についてのお問い合わせや厚岸町の遺跡をもっと知りたい方は

厚岸町教育委員会生涯学習課海事記念館文化財係

住所：〒088-1151 厚岸郡厚岸町真栄3丁目4番地

電話番号：0153-52-4040

調査理由: 自然崩壊

調査地: 北海道野付郡別海町床丹1-2

調査主体: 別海町教育委員会

調査期間: 平成26年6月2日～8月8日

調査面積: 407㎡

調査の概要

床丹1チャシ跡は、別海市街から北東に18kmの地点に位置し、根室海峡側の国道244号線沿い、ライトコタン川左岸に位置します。立地は、独立丘陵、標高は8～10mで孤島式に分類されます。

近年の台風、低気圧の通過によって地盤がゆるみ、チャシ跡の一部が崩壊しはじめたことから、記録保存のための調査を実施しました。調査は、①現存するチャシ跡の測量、②今後崩壊が予想されるチャシ跡北側の全面発掘による記録保存、③チャシ跡の基礎的な情報を得るための詳細分布調査、を要点としました。

測量調査では詳細なチャシ跡の形状が明らかになりました。全面発掘調査区では、柱穴1基、道跡1カ所、地すべり跡1カ所を検出し、遺物は礫59点、動物遺体14点が出土しました。詳細分布調査では、塚の広がりや繋がりを確認する目的で、トレンチを8カ所設定しました。7カ所のトレンチで塚が検出され、従来円形の塚1条に囲まれた単郭のチャシ跡と考えられてきましたが、8字状の塚に囲まれた複郭のチャシ跡であることがわかりました。また、その他遺構には、柱穴11基、焼土2カ所、畑跡1カ所が検出され、遺物は、鉄鍋口縁部1点、礫72点、動物遺体31点が出土しました。チャシ跡の年代については、検出された焼土等から採取した炭化物のAMS分析により、15～16世紀の年代が与えられるようです。

報告書は平成27年3月に刊行する予定です。



床丹1チャシ跡 (西上空から)



検出された塚

この遺跡についてのお問い合わせや別海町の遺跡をもっと知りたい方は

別海町郷土資料館

電話番号: 0153-75-0802

<http://betsukai.jp/blog/0002-2/index.php?ID=137>

平成27年3月 発行

市町村における発掘調査の概要 平成26年度(2014年度)

編集・発行

北海道教育庁 生涯学習推進局 文化財・博物館課

〒060-8544 北海道札幌市中央区北3条西7丁目

TEL 011-231-4111 内線35-606